4　極東におけるユダヤ人避難民問題

1227

昭和12年12月21日　在ハルビン鶴見（憲）総領事より広田外務大臣宛（電報）

極東ユダヤ人大会における祝辞の依頼に対し対応振り請訓

付記　昭和十三年一月六日、欧亜局第一課作成「在極東猶太民會第一回全体會議開催ニ關スル件」

ハルビン　12月21日前発
本　省　12月21日前着

第三二〇號（極祕）
本官發滿宛電報
第四八一號

一、來ル十二月二十六日神戸、上海、天津、大連、奉天、齊々哈爾、海拉爾、滿洲里在住ノ猶太人代表者當地ニ會合シ當地猶太人教會主催ノ下ニ大會ヲ開催シ席上今後猶太人ハ現在ノ東亞ニ對スル新情勢ニ鑑ミ日本側ニ依存セサルヘカラストノ趣旨ヲ決議シ之ヲ各代表ノ演說ト共ニ廣ク印刷シ大イニ氣勢ヲ揚クル豫定ニテ又極東猶太民族ノ機關紙ヲ大連ニ於テ發行スルノ計畫ヲ右大會ニ諮リ之カ實現ヲ計ル準備ヲ進メ居レリ

二、右大會（二人カ）ニ特務機關長出席シ祝辭トシテ猶太人ノ平和的經濟活動ニ對シテハ日本側ニ於テモ之ヲ援助スヘキ旨ヲ述フル豫定ニテ又陸軍省ヨリハ特ニ人ヲ當地ニ派スルコトトナリ居ル處本官ニ祝辭ヲ述フル意嚮アリヤトテ憲兵隊ヨリ聯絡ノ次第アリ

三、就テハ猶太人ヲ排斥シ居ル獨逸ト我國カ防共協定ヲ締結シ居ルニモ鑑ミ本官ヨリ祝辭ヲ述フルハ獨逸側ニ對シ機微ノ關係ヲ生スル惧アルモ他方全滿各地ニ於テ經濟的ニ有力ナル地位ヲ占ムル猶太人ノ指導上前記祝辭ヲ與ヘ置クコト然ルヘキ樣思考セラルルニ付右樣取計ヒ差支ナキヤ何分ノ儀御回訓（ヲ請フ）

大臣ヘ轉電セリ

（付　記）

昭一三、一、六

在極東猶太民會第一回全体會議開催ニ關スル件

豫テ東亞現下ノ情勢ニ對應シ日滿兩國ニ依倚セントスル新運動ヲ興シツツアリタル神戸、大連、奉天、哈爾賓、齊々哈爾、海拉爾、滿洲里、上海、天津等日滿支各地在住ノ猶太人代表者ハ舊臘二十六日哈爾賓猶太人教會主催ノ下ニ同地商業倶樂部ニ於テ在極東猶太民會第一回全体會議ヲ開催セル處同會議ニハ哈爾賓猶太人民會長「カウフマン」博士、「ラツヴイ」大僧正、「スキデルスキー」（材木商）、「ツケルマン」（菓子商「マルス」店主）其他各地代表者多數出席シ又日滿側ヨリハ樋口特務機關長、河村少佐、小野田少佐、谷口副（ママ）領事、施履本哈爾賓市長、結城省長等列席セリ

劈頭「カウフマン」博士開會ノ辭ヲ述ヘ次テ日滿兩國カ今次大會ヲ猶太民族ノ利益擁護上唯一ノ代表機關ト認メ之レカ結成ニ充分援助ヲ與ヘン事ヲ期待スルト共ニ大會トシテハ日滿兩國ノ使命タル大家族主義的國家政策遂行ヲ支援スルトノ趣旨ノ決議文朗讀セラレタル后「ラツヴイ」大僧正挨拶ヲ爲シ樋口特務機關長ハ猶太人ノ平和的經濟的活動ニ對シテハ日本側ニ於テモ之レヲ援助スル旨ノ祝辭ヲ述ヘタリ

會議ハ更ニ右決議文ヲ各代表者ノ演說ト共ニ印刷ニ附シ汎ク配付シ氣勢ヲ揚クル件極東猶太民族ノ機關紙ヲ大連ニ於テ發刊スル件其他ノ具体的細目事項ヲ附議シタルカ二十七日及二十八日モ引續キ開催セラレ

一、日滿兩國提携ノ下ニ如何ナル方法ニ依リ新運動ヲ展開スヘキヤ

二、各居留民會ノ現狀竝將來ノ對策

三、社會事業、教育事業ノ遂行方針

四、「パレスタイン」ノ獨立及猶太國建設

等ヲ審議シ閉會セリ

右大會開催前哈爾賓憲兵隊ヨリ我總領事ニ對シ特務機關長ハ出席シ祝辭ヲ述フヘク又陸軍省ヨリ特ニ人ヲ派ス予定ナル處總領事モ祝辭ヲ述フル意向アリヤトノ問合セアリ我方トシテハ全滿各地ニ於テ經濟的ニ有力ナル地位ヲ占ムル猶太人ノ指導ハ素ヨリ必要ナルモ猶太人ヲ排斥スル獨乙ト防共協定ヲ締結シ居リ機微ノ關係ヲ生スル倶アルニ鑑ミ本件大會ニハ外務省側ハ表向キ參與シ居ラサル建前ヲ執ル事ト

ナリ總領事代理トシテ谷口領事ヲ出席セシメタリ

1228

昭和13年1月13日　在ハルビン鶴見総領事より
広田外務大臣宛（電報）

極東ユダヤ人大会の開催事情について

ハルビン　1月13日後発
本　省　1月13日夜着

第一九號（館長符號扱）
貴電第七號ニ關シ(1)

一、同大會開催ノ動機ニ關シ最初ヨリ當地猶太人トノ接觸ノ任ニ當リ來レル特務機關川村少佐ノ内話左ノ通リ

同大會ハ全ク當地猶太人協會側ノ自發的活動ニ基ケルモノニシテ同大會開催前同協會會長「カウフマン」ヨリ川村ヲ訪レ我々ハ日本カ極東ニ於テ占ムル地位ヲ認識シ日本ニ依存ノ決意ヲ固メ今後ハ日滿兩國ノ國策ニ順應シテ生存ノ途ヲ求メントスルモノナルニ付我々ノ結成ニ對シ日滿兩國官憲側ノ内部的了解ヲ得度キ旨申出アリ之ニ對シ川村ハ祕密裡ニ行動スルハ却テ外部ノ誤解ヲ招ク惧アリ且又日本ニ依存シ來レル者ニ對シテハ日滿官憲ハ正當ノ援助ヲ與フルニ吝ナラサルヲ以テ正々堂々ト公ニ行動スルコト然ルヘキ旨說明セル處「カ」ハ之ニ大イニ力ヲ得今回ノ大會開催ノ運トナレルモノニシテ又樋口特務機關長モ右運動ニ贊同ヲ與ヘ個人ノ資格ニ於テ本大會ニ際シ祝辭ヲ與ヘタル次第ナリ

二、右大會開催ハ客年三月頃ヨリ各地猶太人間ニ寄々協議カ進メラレアリタルモノナルカ支那事變突發以來ノ我軍ノ目覺シキ活動ハ之ニ拍車ヲ掛ケ遂ニ我方ニ依存スルノ決意ヲ愈々固ムルニ至リタルモノナリ

三、(2)右結成運動ニ關シ本年二月ヲ期シ波蘭「ワルソー」及米國（多分紐育）ニ於テ猶太人大會開催セラルル運トナルヘキ趣ナリ

四、前記極東大會ニ對スル日滿側ノ援助ハ猶太人間ニ豫想以外ノ反響ヲ與ヘタルモノノ如ク當地一有力猶太人ニシテ北滿製糖株式會社ヲ經營シ居ル「ジツクマン」ハ本官ニ對シ世界各國ニ於テ政治的及社會的ニ壓迫ヲ受ケ居ル猶太民族カ今回日本側ヨリ援助ヲ與ヘラレタルハ同民族ニ取リテハ歷史的事件ト言フヘク右事實及日本ノ極東ニ於ケル正シキ地位、滿洲國ノ發展ヲ當地發行ノ猶太人機關

紙ヲ以テ世界ニ宣傳スル計畫ヲ進メ居リ其ノ費用ハ幾何ニテモ自分個人トシテ支出スル積リナル旨内話セリ（「ジツクマン」ノ名前ハ外部ニ御發表ナキ様願度シ）
尚本大會ノ詳細ニ付テハ公信ニテ報告濟
冒頭貴電ト共ニ本電澤田參事官ヘ轉電セリ

1229　昭和13年2月4日　広田外務大臣より　在独国東郷大使、在米国斎藤大使宛（電報）

極東ユダヤ人大会の反響につき報告方訓令

本　省　2月4日後0時30分発

合第四〇七號
客年末哈爾賓ニ於テ極東在住猶太人ノ大會開催セラレタル處同大會ニ日本側ヨリ哈爾賓特務機關長等ノ軍人出席シタル事ハ（個人ノ資格ニテ出席シ祝辭ヲ讀ミタルモノナリ）猶太人ニ對シ日本軍部ガ後援シ居ルガ如キ印象ヲ與ヘ之ヲ感激セシメタル趣ナルガ他方猶太人排斥ヲ國是トスル獨逸ニ與ヘタル影響ハ面白カラズ既ニ在京獨大使館ヨリ前記祝辭中ノ字句ニ付抗議シ來レル次第ナルガ本件猶太人問題ハ對獨關係ノミナラズ回教徒問題經濟問題等トモ關連シ我方トシテ愼重考慮ヲ要スル處前記大會ニ關シ貴地新聞報道其ノ他當方參考トナルベキ反響等アラバ詳細郵報相成度
本大臣訓令トシテ獨ヨリ在歐各大公使ヘ轉電アリタシ
本大臣訓令トシテ米ヨリ在北南米大公使紐育市俄古桑港ヘ轉電アリタシ

1230　昭和13年2月7日　在独国東郷大使より　広田外務大臣宛（電報）

極東ユダヤ人大会の反響につき報告

ベルリン　2月7日後発
本　省　2月8日前着

第五九號
貴電合第四〇七號ニ關シ（哈爾賓猶太人大會反響ノ件）
當國新聞等ニ於テハ右ニ關スル記事見當ラス過日本使「ゲツベルス」ニ面談ノ際同氏ハ日本ニ不利ナル記事ハ一切掲載セシメサル様命令シアリト述ヘ居リタル次第モアルニ付右ハ日獨國交ニ鑑ミ當國政府當局ニテ本件報道及記事ヲ差止メタル爲ト認メラル
在歐各大使ヘ暗送セリ

1231

昭和13年9月30日　在ウィーン山路総領事より近衛外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民の本邦通過・入国に関する取扱い振りにつき請訓

ウィーン　9月30日後発
本　省　10月1日前着

第三九號

當國ニ於ケル猶太人排斥ノ結果墺太利丙猶太人（獨逸國籍ヲ有ス）ハ諸外國ニ向ケ多數移住ヲ爲シツツアリ當館ヘモ本邦入國若クハ第三國移住ノ目的ヲ以テ一時滯在ノ爲査證ヲ求メ來ル者アリ然レトモ當館ハ事變下ノ日本ヘノ入國滯在ハ極メテ困難ナルコトヲ説クト共ニ日獨間ニハ査證相互廢止ノ取極アルコトヲ説明シ之ヲ拒絶セルカ是等移住者ハ當館ノ何等カノ證明書ヲ提示セサレハ途中通過國ニテ査證ヲ與ヘサル趣ヲ以テ泣訴スル有様ナルニ依リ已ムヲ得ス「獨逸國人ハ日本ヘノ入國通過共ニ査證ヲ要セス」トノ一般的證明ヲ各人ニ與ヘ彼等ハ此ノ證明書ヲ提示シテ通過國ノ査證ヲ取付ケ居ル模様ナリ然ルニ最近各國共猶太人ノ入國ヲ禁止又ハ制限ヲ設ケタル結果當館ニ證明ヲ求ムル者激增シ一兩日來一日平均五十人以上ニ達セルニ付目下之カ取扱ヲ中止シ居ル次第ナルカ是等猶太人ノ入國ハ我方ニ取リテモ相當重大ナル問題ト認メラルルニ付本件移住者取扱振等ノ點ニ付大至急御電訓相成度シ

㈠從來通リ「査證不用」ノ證明書ヲ發給シ差支ナキヤ

㈡何等カノ制限（例ヘハ上陸ノ際ノ提示金等）ヲ爲ス必要アラハ其ノ標準如何（外國移住者ハ極メテ僅少ノ金額ヲ持出シ得ルニ過キス）

㈢無國籍猶太人ニシテ在外親戚ヨリ上陸ノ際ノ提示金乃至入國後ノ生活費ヲ保證スヘキ旨ノ確實ト認メラルル書翰ヲ有スル時ハ他ニ不都合ノ點ナキ限リ一般無國籍人ト同樣渡航證明書ヲ發給シ差支ナキヤ

㈣今後猶太人ノ本邦入國ニ關シ如何ナル取扱ヲ爲ス御意嚮ナリヤ

尙五月以降現在迄ノ前記證明書發給數四百件ニ上レリ尙是等猶太系獨逸人ハ獨逸國ノ正式旅券ヲ所持シ其ノ有效期間ハ大體一年ニシテ右期間經過後ハ更ニ延長セラレ得ルモ出發後排獨的言辭アル場合ハ右延長ハ拒否サレ得ヘク從テ將來無國籍人トナル可能性多分ニ存ス

1232

昭和13年10月7日　近衛外務大臣より在ウィーン山路総領事宛（電報）

ユダヤ人避難民の本邦通過・入国に関する取扱い振りにつき回訓

付　記　昭和十三年十月五日、欧亜局第一課作成「回教及猶太問題委員會幹事會議事」

本　省　10月7日後3時40分発

第三三號

貴電第三九號ニ關シ

陸海軍及内務各省ト協議ノ結果獨逸及伊太利ニ於テ排斥ヲ受ケ外國ニ避難スル者ヲ我國ニ許容スルコトハ大局上面白カラサルノミナラス現在事變下ノ我國ニ於テハ是等避難民ヲ收容スルノ餘地ナキ實情ナルニ付今後ハ此ノ種避難民（外部ニ對シテハ單ニ「避難民」ノ名義トスルコト、實際ハ猶太人避難民ヲ意味ス）ノ本邦内地幷ニ各殖民地ヘノ入國ハ好マシカラス（但シ通過ハ此ノ限ニ在ラス）トノコトニ意見ノ一致ヲ見タルニ付現行外國人入國令第一條ニ列記セル範圍内ノ理由ヲ以テ渡來阻止方可然御措置アリタシ、從テ㈠此ノ種無國籍避難民ニ對シテハ今後渡航證明書ヲ發給セサルコト但シ通過渡航證明書ハ行先國ノ入國手續ヲ了シ居リ且二百五十圓以上ノ携帯金ヲ有スル者ニ限リ發給差支ナシ㈡査證相互廢止國ノ國籍ヲ有スル避難民ニ對シテハ今後「査證不要」其他ノ證明書ヲ發給セス且本邦ヘノ渡航ヲ斷念セシムル樣說示方御取計アリタシ

尙本内訓ハ猶太人ニ對シ特別ノ手段ヲ講シタルモノニアラス現行外國人入國令ノ範圍内ニ於テ措置スルモノニシテ外部ニ對シ何等之ヲ發表シ居ラス

右本大臣ノ訓令トシテ貴電ト共ニ在歐各公館長ニ暗送アリタシ

（付　記）

回教及猶太問題委員會幹事會議事

十月五日舊墺太利系猶太人ノ本邦入國問題ヲ中心トシ猶太人ノ入國ニ關スル取扱振ヲ檢討スル爲回教及猶太問題委員會幹事會ヲ開催シ亞米利加局第三課長及内務省警保局山路事務官（外事課長代理トシテ）ノ出席ヲ求メ意見ヲ交換セルガ之ヲ綜合スレバ大要左ノ如シ

一、獨逸避難民ノ本邦入國ニ付テハ昭和十年始内務、拓務、

外務三省間ニ於テ協議ノ結果無國籍獨逸系避難民ニ對シテハ渡航證明書ヲ發給シテ差支ナク又獨逸ノ國籍ヲ有スル避難民ニ對シテハ我國内法上之ヲ一般ノ獨逸國民トシテ取扱フ外ナキコトニ意見ノ一致ヲ見タルガ本月一日在維納總領事ヨリ猶太人避難民ニシテ本邦ニ渡航セントスル者アリ日獨兩國間ニハ査證相互廢止ノ取極アルニ拘ラス途中通過スル諸國ノ査證ヲ容易ニ取得スル爲ノ便宜上何等證明ヲ求ムルモノ少カラサルニ付テハ右査證廢止ノ取極アル事實ヲ證明スル一般的證明書ヲ交付シ其數五月以來四百ニ上レルノミナラス現ニ之カ發給ヲ求ムルモノ毎日五十人ニ達スル趣ヲ以テ此等猶太避難民及今後一般ニ猶太人ノ本邦入國ニ關スル取扱振リニ付請訓シ來レリ猶太人避難民ノ本邦入國問題ハ諸般ノ關係上愼重考慮ヲ要スルモノト認ム

二、玆ツテ各國ノ獨墺避難民乃至避難猶太人ノ入國ニ關スル取扱振ヲ見ルニ㈠本年三月二十三日米國「ハル」國務長官ハ二十九箇國ニ對シ政治的原因ニヨリ獨逸及墺太利ヲ離レントスル避難民(猶太人ト明言シ居ラス)ニ對シ便宜ヲ圖ル目的ヲ以テ國際委員會ヲ設置センコトヲ推奨セル「メッセージ」ヲ送リ又米國議會ニハ之ト同趣旨ノ決議案提出セラレ成立セザリシ事實アル處右「メッセージ」ニ對スル各國ノ反響ハ白耳義、和蘭、「アルゼンチン」、「ブラジル」ノ如ク移民ヲ入ルル餘地ナキコトヲ明ニスルモノアリ加奈陀ノ如ク問題解決ニ付協力スル意向アルモ移民收容ノ能力ニハ限度アリト言ヒ英國ノ如ク農業移民ナラバ「キニヤ」植民地ニ收容シ得ルヤモ知レズト言ヒ圓曲(婉カ)ナルモ事實上拒絕スルモノアリ又㈡各國ノ猶太人入國取扱振ヲ見ルニ㈠伊太利ハ曩ニ本年二月十六日反猶的手段ノ採用ヲ考慮セルコトナシトノ非公式聲明ヲナシタルニ拘ラス九月十八日「ムッソリニ」首相ハ「トリエスト」ニ於ケル演說中世界ノ猶太人ハ「フアッシヨ」政權把握以來ノ敵ナルモ伊太利ニ功績アリタル猶太人ハ此ノ限ニアラスト言ヘルカ如ク最近態度ヲ變更シ㈡埃及、和蘭ハ數年來猶太人ノ入國ヲ嚴シク取締リ居リ㈢波蘭ハ猶太人ノ入國ニ當リ多額ノ提示金ヲ要求シ㈣濠州、「ニュージーランド」ハ猶太人ニ對シ特殊ノ取扱ヲナシ居ラサルモ一般ニ移民ニ對スル取扱嚴重ニシテ國内ニ引受人アルコト、職業ニヨリ自活シ得ルコト、提示金ヲ所持スル

コト等ノ制限アリ㈱北米合衆國ハ特ニ猶太人ニ對シ制限ヲ加フルコトハナリ居ラス且猶太避難民ニ對スル取扱ヲ緩和セントスル意向アルニ拘ラス目下「ウイーン」ニ於テハ米國行査證ノ附與ヲ中止シ居ル趣ナリ㈲其他南米諸國中ニハ猶太人ノ入國ヲ警戒シ居ルモノアリ尙本邦ニ於テハ從來猶太人ノ入國ニ付特別ノ制限ヲ加ヘ居ラス

三、然ルニ獨墺方面ノ猶太人ハ猶太人ノ入國ニ對スル我國ノ取扱振カ他國ニ比シ寛大ナルコトヲ知リ居ルモノノ如クナルニヨリ今後極東ニ避難シ來ルモノ相當多數ニ上ルベシト豫想セラレ之等猶太人ハ本國ヲ去ルニ當リ二十「マーク」程度ノ金ヲ持出シ得ルニ止マルニ依リ一般ニ貧困ニシテ思想的ニモ反「ナチ」的ナルモノ多カルベキ處現在本邦ニ在留スル猶太人モ「スパイ」、「ドル」買等好マシカラザル行爲ニヨリ檢擧セラレタル者アル次第ニモアリ此上本邦內地ニ猶太避難民ノ入リ込ムコトハ好マシカラズ若シ猶太避難民ニシテ財力ヲ有スル者アリトシ我方ニ於テ之ヲ利用シ得ルカ又ハ此等ノ猶太人ニ對スル我方ノ取扱ニヨリ中南支猶太財閥カ我方ト協力スル等ノ實績上ルカ如キ場合ハ格別ナルモ一般ニハ猶太人ノ入國ハ好マシカラザルナリ（此項軍令部犬塚大佐ノ意見）

支那ノ一部ニ猶太人地域ヲ設クル案ハ差當リ實行困難ナリ

四、猶太避難民ノ入國取締方法ハ必スシモ容易ナラス殊ニ獨逸旅券ヲ所持スル者ハ其猶太人ナルコト又ハ避難民タルコトノ識別困難ナル場合多カルヘキ處右ニ付獨逸避難民ニ對シ獨逸當局ガ旅券ヲ發給セル場合ニハ我方ニ於テ通知ヲ受クルコトトシテハ如何トノ意見アリタルモ右ハ我國ガ明カニ反猶政策ヲ採ルモノナリトノ印象ヲ與フヘク對猶根本政策確定セス又猶太人ヲ利用シ得ル場合ニハ敢テ排擊スル要ナカルヘシトノ考ヘ方モアルニヨリ其影響ニ付テハ相當考慮スヘキモノアルヘシ

五、從ツテ「ウイーン」ニ於ケル當面ノ問題ニ付テハ左ノ通處置スルヲ可トスヘシ

㈠査證廢止證明書ハ當然ノ事實ヲ證明スルニ止マルモノナルモ之カ發給ハ本人及通過國官憲ニ對シ本邦ニ必ス入國シ得ルモノナルヤノ感觸ヲ與フヘキニヨリ之ヲ取止ムルコトトシ避難民ノ渡航ハ支那事變中ノコトニモ

アリ好マシカラザルコトヲ說示スル等圓(婉カ)曲ニ猶太避難民ノ渡航ヲ斷念セシムルヤウ工作スルコト

㈡無國籍ナル猶太避難民ニ對シテハ渡航證明書ヲ發給セザルコト

六、尙猶太人ノ入國ニ關スル根本方針ニ付テハ猶太對策全般ノ問題ト共ニ更ニ研究スルコトヲ要ス

當日ノ出席者左ノ通

陸軍省　齋藤少佐
參謀本部　太田少佐
海軍省　能登少佐
軍令部　犬塚大佐、山田大佐、横井大佐、江口少佐
內務省　山路事務官
外務省　隈部、加瀨、三浦各書記官
東光、鶴岡、柿坪、甲斐、稻垣、福田、田內各事務官
山崎領事、中根副領事、土居囑託

1233

昭和13年10月7日　近衛外務大臣より在米国斎藤大使、在独国東郷大使他宛

ユダヤ人避難民の本邦入国に関する取扱い振り訓令

米三機密合第一四四七號
昭和拾參年拾月七日

外務大臣　公爵　近衛　文麿

在外各公館長殿

猶太避難民ノ入國ニ關スル件

獨逸及伊太利ニ於テハ猶太人ヲ排斥シツツアリ且其他ノ諸國モ彼等ノ入國ヲ好マサルモノ少カラサル結果最近關係在外公館ヨリノ報告ニ徵スルニ是等猶太人ニシテ我國ニ避難シ來ラントスル者漸次增加ノ傾向有之趣ナルニ就テハ之カ對策ニ關シ過般當省、內務及陸海軍各省係官會合協議ノ結果我盟邦ノ排斥ニ因リ外國ニ避難セントスル者ヲ我國ニ於テ許容スルコトハ大局上面白カラサルノミナラス現在事變下ニ在ル我國ノ實情ハ外國避難民ヲ收容スルノ餘地ナキヲ以テ此種避難民(外部ニ對シテハ單ニ「避難民」ノ名義トスルコト、實際ハ猶太人避難民ヲ意味ス)ノ本邦內地幷ニ

各殖民地ヘノ入國ハ好マシカラス(但シ通過ハ此ノ限ニ在ラス)トノコトニ意見ノ一致ヲ見タルニ付右御含ノ上今後是等避難民ニ對シテハ我國ノ現行外國人入國令第一條ニ列記セル範圍内ノ理由ノ下ニ本邦渡來阻止方可然御措置相成度從テ㈠此種無國籍避難民ニ對シテハ今後凡テ渡航證明書ヲ發給セサルコト但シ單ニ我國ヲ通過スルニ止マル者ニ對シテハ行先國ノ入國手續ヲ完了シ居リ且二百五十圓以上ノ提示金ヲ到着ノ際所持スル者ニ限リ通過渡航證明書ノ發給ハ差支ナク又㈡我國ト査證相互廢止ノ取極アル國ノ國籍ヲ有スル此種避難民ニ對シテハ今後本邦入國ニ關シ貴館ニ何等願出等アリタル際ハ査證ヲ與ヘサルハ勿論何等ノ證明書ヲモ發給セス本邦渡來ヲ斷念セシムル様説示方御取計アリ度又㈢右以外國籍ヲ有スル此種避難民ニ對シテハ今後凡テ査證ヲ與ヘサル様可然御取計相成度尚本内訓ハ猶太人ニ對シ特別ノ手段ヲ講シタルモノニアラス現行外國人入國令ノ範圍内ニ於テ措置スルモノニシテ外部ニ對シ何等之ヲ發表シ居ラサルニ付右様御含相成度此段申進ス

本信送付先　在外各公館長

編注　本公信は一部公館を除く一四四の在外公館長へ発信された。

1234

昭和13年10月17日　在ウィーン山路総領事より近衛外務大臣宛(電報)

ユダヤ人避難民の本邦入国を禁止すべき旨意見具申

ウィーン　10月17日後発
本　省　10月18日前着

第五〇號

貴電第三三號及往電第四九號ニ關シ

我方ニ於テ獨、伊ノ如ク一般的猶太人排斥政策ヲ執ルコトハ差當リ不得策ト思考スルモ事變下ノ我國ニ多數猶太人避難民ノ渡航スルコトノ好マシカラサルハ貴電御來示ノ通リニシテ當方ニ於テモ極力之カ阻止ニ努メ居ルモ査證相互廢止國ノ國籍ヲ有スル者ハ理論上我在外公館ニ出頭セスシテ本邦渡航ヲ爲シ得ヘキ理ニシテ此ノ場合ニハ出先ニテ阻止ノ方法ナク且現行外國人入國令第一條ニ列記セル範圍内ノ理由ヲ以テ阻止スルコトハ多少無理ナル次第ナルノミナラ

ス又世界諸國ニ於テ公然ト入國禁止又ハ制限ヲ爲シ居ル今日ニモアリ此ノ際寧ロ進ンテ帝國政府ニ於テ此ノ種避難民ノ入國禁止ヲ決定シ之ヲ公表セラルルコト適當ナルヘク右ノ如キ措置ニ出ツルモ對獨、伊關係ニハ勿論其ノ他ノ對外關係ニ大ナル惡影響ヲ及ホスカ如キコトナカルヘシ尙支那ニ於ケル我軍占據地帶及滿洲國等ニ對シテモ同樣ナル措置ニ出ツルコト適當トスヘシ

1235

昭和13年10月20日　近衛外務大臣より在上海日高総領事宛

上海ユダヤ人問題に関する犬塚大佐の談話要領につき通報

調三機密第八一五號

昭和拾參年拾月廿日

外務大臣　公爵　近衛　文麿

在上海

總領事　日高　信六郎殿

上海猶太人問題ニ關スル談話要領送付ノ件

豫テ本省ニ於テハ回教及猶太人問題ニ付陸海軍係官トノ間ニ隨時意見ノ交換ヲ行ヒ來レル處十月十二日貴地在住猶太人ノ問題ニ關シ軍令部犬塚大佐ノ意見ヲ聽取セルニ付右要領別紙ノ通御參考迄送付ス

本信寫送付先　南京、青島、天津、北京

（別　紙）

上海猶太人問題ニ關スル件

一、上海ニ在ル猶太人ハ現地ニ財產及活動ノ根源ヲ有スルモノナルニヨリ日支事變以來日本ノ動向ニ異常ナル關心ヲ示シ對日接近ノ機會ヲ求メツツアリ日本側ノ對猶關心程度ヲ知ル爲焦慮シ居ルモノノ如シ先般七十萬弗對日船舶買付「クレヂツト」ヲ設定セルカ如キハ彼等ノ對日打診策ト見ラル斯ル際日本ノ廣東攻略ハ彼等從來ノ日和見的態度ヲ淸算セサルヲ得サラシムルモノニシテ今ヤ對猶工作ノ好機會ナリト謂フヘシ

二、猶太人ヲ利用スルニハ親善ニ墮スルコト最モ戒ムヘク現地ニ於テハ猶太人ノ咽喉ヲ扼シ徹底的ニ之ヲ壓服スルヲ要ス卽チ日本側カ嚴然實力ヲ振ヒ得ル今日確固タル自信ト強烈ナル意氣込トヲ以テ彼等ヲ牽制壓服シ我國ニ依存

スルノ必須ナル所以ヲ了得セシメ他面其馴致工作ヲ實施スルヲ適當トス

三、右馴致乃至猶太人トノ連絡ノ爲ニハ官憲カ表面ニ立ツコト好マシカラス民間實業家ヲ利用セハ案外容易ナルヘシト思料セラルル處右實業家ヲシテ所謂親猶的傾向ニ墮セシメスシテ對猶接近ノ實ヲ擧ケシムル爲ニハ充分ナル猶太認識ヲ授クル必要アリ、然ラサレハ猶太人ヲシテ日本窮セリト誤認セシメ却ツテ逆效果ヲ生スル怖ナシトセス

四、尤モ斯ル對猶工作ハ愼重ニ行フ要アリ先ツ日本トシテハ統一セル根本的對策ヲ確立セサルヘカラサル處目下ノ情勢ヨリ徒ニ猶太人ヲ排撃スルハ不可ナリ猶太人トシテモ現勢ノ打開ニ迫ラレ居レル次第ナルヲ以テ猶太人ノ在支經濟力ヲ適當ニ我方ニ利用スルコト然ルヘク先ツ彼等ノ希望ヲ詳ニシ我方ノ要求ヲモ明示スル要アリ中央ニ於テ早急ニ猶太人利用ノ實際的方策ヲ考慮シ確定スルコト先決問題ナリ

五、對猶接觸ハ民間有力者ノ團体ヲシテ當ラシムルコト最モ適當ニシテ之カ爲ニハ日本經濟聯盟ノ如キ有力ナル團体ヲ利用スヘク之ニ委員會ヲ設ケ猶太問題ヲ研究セシメ且政府ト連絡ヲ保タシムヘキナリ

尚上海ニ於テハ國際政經學會支部、陸軍特務機關、海軍武官室、總領事館、滿鐵支社等此上共連絡ヲ密ニシ情報ヲ交換スルコト緊要ナリ

六、要スルニ(イ)上海猶太人殊ニ「サツスーン」等ハ現地ニ資本及財產ヲ有シ(ロ)猶太人ハ英國ヲ離レ日本ニ傾キツツアルヤノ氣配アリ(ハ)我方ハ支那開發ノ爲尨大ナル資金ヲ要スルコトモアリ此際上海ノ猶太人ヲ利用シ得ル限度如何、我方ノ目的ト相容レサル部分如何等詳細研究ノ必要アルヘク之カ爲上海ニ於ケル情報機關ノ連絡强化及現地調査ノ必要切ナルモノアリ

1236

昭和13年11月15日　在米国斎藤大使より
有田外務大臣宛（電報）

米国におけるユダヤ人勢力は侮りがたく日独文化協定締結の発表振りには十分注意すべき旨意見具申

ワシントン　11月15日後発
本　省　11月16日前着

第五二八號

今次獨逸ノ極端ナル猶太人壓迫手段ハ當國一般ヲ鮮カラス刺戟スル所アリ前大統領「フーバー」前共和黨大統領候補「ランドン」內務長官「イキス」ノ如キ有力者モ公然之ヲ非難シ居リ又駐獨米大使「ウイルソン」モ協議ノ爲ト稱シ本國歸還ヲ命セラレタルカ如キ狀況ナルカ之ト時ヲ同フシテ日本ハ獨逸トノ間ニ其ノ民族主義ヲ承認スルコトヲ基調トスル文化協定ヲ締結セントシツツアルコト當方面ニ報道セラレ前記獨逸ノ措置トモ關聯シ一般ノ注意ヲ惹キツツアリ惟フニ當國ニ於ケル猶太人ノ勢力侮ルヘカラサルモノアルハ御承知ノ通リナルノミナラス我方ニ於テ人種差別ノ原則ヲ承認スルカ如キ印象ヲ與フルコトハ當國ニ於ケル日本移民問題ノ將來ニ面白カラサル影響アルヘキコトハ申ス迄モナキ次第ナルニ付本件協定ノ發表振其ノ他ニ付テハ右事情御含ノ上出來得ル限リ御注意相成リテハ如何カト存ス

獨ニ轉電セリ

1237

昭和13年11月16日　在独国大島大使より
有田外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民の激増に鑑み本邦や満州国などへの入国取締り方法につき請訓

ベルリン　11月16日前発
本　省　11月16日後着

第七〇一號

往電第六八〇號ニ關シ

其ノ後獨逸政府ハ各種ノ法令等ヲ以テ反猶太政策強行ヲ確認シタル結果（委細郵報）猶太人ノ本邦、滿洲國等ヘノ渡航ヲ希望スル者頻々ト當館宛問合セ乃至便宜供與方ヲ懇請シ來ル有樣ナルニ付右ニ對シテハ貴大臣發在維納總領事宛電報第三三號ノ趣旨ニ依リ成ルヘク渡航ヲ斷念セシムル樣應酬シ居レリ尙當地郵船出張所ヨリ日本向乘船券ヲ購入スル猶太人多數アリ又既ニ渡航途上ニ在ル者モ相當多數アリトテ猶太人船客ノ取扱振ニ付當館ノ意嚮ヲ尋ネ來レルニ付今後猶太人ニ對シテハ渡航ヲ思止マラシメ又既ニ渡航ノ途上ニ在ル者ニ對スル本邦入國ニ關シテハ在京郵船本社ニ於テ本邦關係官憲ト聯絡スルコトトセラレ度ク更ニ出發前ノ猶太人船客ニ對シテハ本邦ニ於テノ取扱振ヲ然ルヘク通達シ成ルヘク出發セシメサル樣取計フコト然ルヘシト答ヘ置キ

タルニ付右爲念

御承知ノ通リ獨逸ヨリ逃亡スル猶太人ハ再ヒ歸國ヲ許サレス國内ニ於テハ無國籍人以下ノ待遇ヲ受クル實情ニシテ彼等ノ中ニハ本邦ヨリ見テ好マシカラサル分子モ少カラサル様見受ケラルルニ付本邦、滿洲國、上海等ヘノ渡航者ノ上陸入國ニ付取締方法ヲ決定シ當方ヘ通報セラレ度シ尚歐洲諸國中此ノ種猶太人ノ入國ヲ制限禁止ヲ實行セルモノ多數ナルニ鑑ミ本邦ニ於テ猶太人ノ入國ヲ制限セサルニ於テハ將來猶太人ノ渡航者激增スルノ惧アリト豫測セラル

漢堡、維納へ轉電セリ

1238

昭和13年11月21日　在北京堀内総領事より有田外務大臣宛（電報）

華北地方へのユダヤ人避難民の入域を拒否したいとの軍側意向について

北　京　11月21日後発

本　省　11月21日夜着

第一七二八號

最近猶太人（獨逸旅券上ニJewト赤書セルヲ持參スル者）弗々北支ニ入リ來リ近ク六百人位來支ノ說アル趣ニテ（西比利亞滿洲國經由）天津租界ニテハ元露國領事「ペルツ」カEuropean Committeeヲ作リ之カ救濟ニ當リ英米佛ニ「アピール」シ居ル處軍側ニ於テハ思想上又ハ經濟上好マシカラストノ理由ニ依リ入國ヲ拒否スルコト（特ニ猶太人ノ理由ニ依ラス又從來在住ノ猶太人ヲ壓迫セス）ト致度キ旨申出テタリ當方ヨリ今日作戰中ニテモアリ所謂治安上好マシカラサル者乃至ハ貧困者タル理由ニ依ルナラハ差支ナキ旨述ヘ右様手心ニテ取扱フコトヲ決定セリ右ニ對シ何等御意見アラハ御回示アリ度シ

滿、上海、天津へ轉電セリ

1239

昭和13年11月29日　在ニューヨーク若杉総領事より有田外務大臣宛（電報）

対米輸出への影響を踏まえたユダヤ人対策につき意見具申

ニューヨーク　11月29日後発

本　省　11月30日前着

第四三四號

當地方排日貨運動ハ既ニ歐洲問題ニ追ハレ少クトモ表面上ノ活動ハ下火トナリタル爲一般消費者ノ日本品ニ對スル買氣モ漸次囘復ノ過程ヲ辿リツツアルニ加ヘ從來日本品ト競爭關係ニ在リシ致國及墺太利等ノ製品カ今ヤ獨逸製品トシテ輸入セラルルコトトナレルヲ以テ之カ主タル取扱商タル猶太人ニ依リ「ボイコツト」セラルル結果是等ニ代ルヘキ製品ノ供給ヲ日本ニ求メサルヘカラサルニ至レル爲米商中漸ク歐洲ニ見切ヲ付ケ本邦品主トシテ雜貨仕入ノ爲渡日スル者數ヲ增シ來レル傾向アル處從來ヨリ絹物ヲ始メトシ雜貨等ノ日本品取扱商ノ多クハ猶太系ノ米人ニシテ彼等ノ中日本ニ於テ叩買ヲ爲シ他方當市場ニ於テハ安賣ヲ爲ス等相當問題ヲ起シタル事例（本邦賣手ニモ非難スヘキモノアリ）アリト雖兎ニ角日本品ノ販路ニ緊密ナル聯絡アルコトハ否ミ難ク從テ是等猶太人ニ無用ノ刺戟ヲ與ヘ之ヲ敵ニ廻ストキハ我對米輸出ニ多大ノ惡影響ヲ及ホスコト明カナルノミナラス既ニ今囘ノ對日「ボイコツト」カ對獨「ボイコツト」ニ比シ比較的效果擧ラサリシハ中間商人タル猶太人カ商賣上自己ノ立場ヲ擁護旁日本カ未タ曾テ猶太人ニ迫害ヲ加ヘタルコトナキ事實ニ鑑ミ日獨防共協定ノ爲日本ヲ獨逸ト同一視スルノ當ラサルコトヲ主張シタルコト與ツテ力アリ少クトモ彼等商人ハ日支問題ニハ米人トシテ中立ヲ守リタルハ勿論却テ寧ロ排日貨運動ニ對抗シ來レル次第ナルカ最近日獨文化協定締結傳ヘラレ一般猶太人カ日本ノ態度ニ注目シ居ル折柄現ニ二十八日「ヘラルド、トリビユウン」紙伯林ＡＰ通信所報ノ日本ニ於ケル猶太系墺太利人音樂教授ニ對スル契約破棄ノ報道ニ刺戟セラレタル猶太系米商ヨリ斯ル報道カ直ニ猶太人取扱商間ニ排日貨運動ヲ起スニ至ルヘク殊ニ「クリスマス」商內ヲ控ヘタル此ノ際一般消費者ニ呼掛ケルニ至レハ昨年來ノ滯貨消化ノ時機ヲ失ヒ其ノ打擊甚大ナルノミナラス將來永ク禍根ヲ貽ス惧アリトテ憂慮シ眞相ヲ問合セ來リタル者アリタル狀態ナルニ付テハ目下渡日ノ猶太系米商ニ對シテハ本邦賣込商ハ競爭ヲ避ケ買叩カレサル樣注意スルト共ニ一面顧客トシテ或程度ノ好意ヲ示シ特別ノ優遇ヲ爲ササル迄モ切メテ日本ニハ猶太人排斥ノ事實ナキコトヲ篤ト認識セシメラレ度シ他方出來得レハ商業會議所等ニ於テ然ルヘキ聲明ヲ爲サシメ之ヲ在本邦外人記者ヨリ當地新聞ヘ電報セシムル樣工作スルコト機宜ニ適スト存セラル

米へ暗送セリ

1240

昭和13年11月30日　在ハルビン鶴見総領事より
有田外務大臣宛（電報）

来満するユダヤ人避難民の大連経由上海行きに関し軍側と協議について

ハルビン　11月30日後発
本　省　12月1日前着

第二一四號（極祕）
本官發滿宛電報
第二一四號
十月七日附大臣來信米三機密合第一四四七號ニ關シ（猶太避難民ノ入國ニ關スル件）
第一回獨逸避難民六名中二名ハ身許引受人アリ當地ニ落着キ他ノ四名ハ北支ニ赴キ續イテ入滿セル第二回避難民二九名ハ北支ニ送ル筈ナリシカ北支軍當局ニ於テハ天津入ヲ許可セサル爲目下奉天ニ留リ居リ二十九日到着ノ第三回避難民三〇名モ目下當地滯在中ニシテ今後避難民ハ更ニ陸續來滿スヘク（當地憲兵隊カ蘇聯方面ヨリ入手セル情報ニ依レハ約千名ニ達スル趣ナリ）之カ處置方ニ關シ安江大連特務機關長ハ新京ニ於テ各方面ト打合ヲ爲シタル上（關東軍側ニ於テハ北支軍當局ノ避難民阻止ノ態度ニ對シ不滿ヲ洩シ居ル趣ナリ）三十日來哈セルカ當館及特務機關憲兵隊トモ聯絡ノ結果今後ハ總テ大連經由ニシテ上海ニ赴カシムルコトトセリ一方當地蘇聯總領事館側ハ日滿兩國カ猶太人排斥運動ヲ開始セリトテ猶太人民會幹部等ヲ煽付ケ頻リニ宣傳ヲ爲シ居リ其ノ爲在滿猶太人ヲ刺戟シ動搖ノ徵アルヲ以テ其ノ波及阻止策トシテ當地猶太人民會長「カウフマン」ニ對シ本官ヨリ日本側ハ猶太人ヲ强チ排斥スルモノニアラサル事情ヲ說明スルコトトセルカ尙軍側ニ於テハ右「カウフマン」ヲ新京ニ招致シ協和會ヲシテ「滿洲國トシテハ共產主義ハ之ヲ排斥スルモ民族的排斥ハ爲サス唯目下戰時體制下ニ在ル滿洲國トシテハ多數避難民ヲ收容シ得サルモノナリ」トノ趣旨ヲ懇切ニ說明セシムルコトトナレリ
大臣、滿洲里、北京、天津、上海へ轉電セリ

1241

昭和13年12月2日　有田外務大臣より
在米国斎藤大使宛（電報）

ユダヤ人問題に関する情報部長談話につき通報

本　省　12月2日後9時発

第三六四號

猶太人問題ニ付テハ本邦ニ於テハ何等差別的待遇ヲ爲シ居ルモノニ非ストノ建前ニテ外人記者ニ對シテハ情報部長定期會見ニ於テ累次應酬シ來リ（其都度外人記者ヨリ發電濟）タルカ二日ノ會見ニ於テ更ニ左ノ通言明セリ

猶太人避難民ノ本邦、滿洲國竝北支等ヘノ入國拒否ノ事例ナシ最近滿洲方面ニ來リ若クハ通過セルモノノ殆ント全部ハ恐ラク獨乙ヨリノ避難民ナルヘク本邦、滿洲國兩國共各其外國人入國取締規則ニ依リ取締リヲ爲スニ過キス北支ニ於テモ事變下現在ノ特殊事情ニ鑑ミ貧困者及安寧秩序ニ害アル如キ「アンデザイヤブル」ノ者ハ入國ヲ禁止サレ居レリ

獨ニ轉電セリ

獨ヨリ英、伊ニ轉電シ佛蘇ニ郵送アリタシ

1242

昭和13年12月7日　在上海日高総領事より
有田外務大臣宛（電報）

上海方面日本軍占領地域へのユダヤ人避難民の入域は困難の旨報告

上　海　12月7日後発
本　省　12月7日夜着

第三六三二號

貴電合第三一五六號ニ關シ（猶太避難民入國ニ關スル件）

當地共同租界及佛租界ニ來ル猶太人避難民ハ我方ニ於テ阻止スル限リニアラサルモ當方面我軍占領地域ヘノ第三國人ノ入域ハ軍側ニ於テ制限シ居リ現在ノ處戰前居住者ノ復歸ヲ認ムル程度ニシテ當分此ノ種避難民カ入域ヲ許可セラルルコトナシ尤モ將來ノ取扱方針ニ關シテハ軍側ノ意嚮ハ未定ナルモ表面ヨリ猶太人ヲ排斥スルコトヲ避ケ治安上乃至貧困等ノ理由ニ依リ手心ヲ加フルコト然ルヘシト存セラル

滿、北京、上海ヘ轉電セリ

1243

昭和13年12月7日　有田外務大臣より
在独国大島大使、在米国斎藤大使他宛
（電報）

「猶太人對策要綱」に基づき措置方訓令

本　省　12月7日後11時10分発

合第三五四四號

猶太避難民問題ノ重大性ニ鑑ミ昨六日政府ハ日、滿、支全般ニ亘ル右對策ヲ次ノ通決定セルニ付右方針ノ下ニ可然御措置アリタシ

猶太人對策要綱

獨伊兩國トノ親善關係ヲ緊密ニ保持スルハ現下ニ於ケル帝國外交ノ樞軸タルヲ以テ盟邦ノ排斥スル猶太人ヲ積極的ニ帝國ニ抱擁スルハ原則トシテ避クヘキモ之ヲ獨國ト同樣極端ニ排斥スルカ如キ態度ニ出ツルハ啻ニ帝國ノ多年主張シ來レル人種平等ノ精神ニ合致セサルノミナラス現ニ帝國ノ直面セル非常時局ニ於テ戰爭ノ遂行特ニ經濟建設上外資ヲ導入スルノ必要ト對米關係ヲ惡化スルコトヲ避クヘキ觀點ヨリ不利ナル結果ヲ招來スルノ虞大ナルニ鑑ミ左ノ方針ニ基キ之ヲ取扱フモノトス

方　針

一、現在日、滿、支ニ居住スル猶太人ニ對シテハ他國人ト同樣公正ニ取扱ヒ之ヲ特別ニ排斥スルカ如キ處置ニ出ツルコトナシ

二、新ニ日、滿、支ニ渡來スル猶太人ニ對シテハ一般ニ外國人入國取締規則ノ範圍内ニ於テ公正ニ處置ス

三、猶太人ヲ積極的ニ日滿支ニ招致スルカ如キコトハ之レヲ避ク

但シ資本家技術家ノ如キ特ニ利用價値アル者ハ此ノ限ニ在ラス

右ハ本邦ニ關スル限リ往信米三機密合第一四四七號ノ趣旨ト同一ナルニ依リ其ノ取扱方ニ付テハ同信記載ノ要項ニ依リ御處理アリタシ唯入國條件ニ牴觸セサル資本家、技術家ノ如キ者ノ入國ニ付テハ豫メ事情ヲ詳具シ請訓相成樣致度シ

本電宛先　在外各公館長

獨宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ在歐洲、阿弗利加及近東（アフガニスタン以西）各公館長ニ暗送アリタシ」ト附記ノコト

滿宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ奉天、哈爾賓、滿洲里ニ轉電シ其他ノ在滿各館ヘ暗送アリ度シ」

北京宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ天津、青島、山海關ニ轉電シ其他ノ在北支各館ヘ暗送アリ度シ」

上海宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ在中南支各館ニ暗送アリ

度シ」
香港宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテマニラニ轉電シ「ダヴァオ」ニ暗送セシメラレ度シ」
新嘉坡宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ香港及比律賓ヲ除ク在南洋及南部アジア(アフガニスタン以西ヲ除ク)各館ヘ暗送アリ度シ」
米宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ在南北中米(ホノルルヲ含ム)各館ニ暗送アリ度シ」
浦潮宛ヘハ「本大臣ノ訓令トシテ亞港及「オハ」ニ暗送アリ度シ」
ト附記ノコト

1244

昭和13年12月12日　在米国斎藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

日満両国ではユダヤ人排斥の事実はない旨を極東ユダヤ人大会を通じて対米世論啓発方請訓

ワシントン　12月12日後発
本　省　12月13日後着
第五六六號

Lew Zickman（在哈爾賓北滿製糖常務ノ由ニテ參謀本部樋口第二部長ヲ良ク承知シ居ル趣）先般來紐育方面猶太人ト接觸シ居ル處本邦及滿洲國ニ於テ一、二猶太人排斥セラレタルヤノ記事現レ非常ニ困却セリトテ零シ居リタルカ近頃ハ工作大體順調ニ進ミ居ルニ付此ノ上當方面猶太人ノ神經ヲ刺戟スルカ如キ報道ノ傳ハラサルヲ望ム旨申シ居タル趣ナルカ殊ニ來ル二十六日哈爾賓ニ於テ前回同様ノ猶太人會合アルニ付其ノ席上可然決議ヲ爲サシメテ貴方ノ方針ヲ當方面ニ「キヤリー」セシムル様取計ハレ度キ旨申出テタル趣ナリ此ノ點ハ遣方次第ニテ好影響ヲ齎シ得ヘキヤニ存スルニ付可然御取計相成様致度シ
滿ヘ轉電アリタシ
紐育ヘ暗送セリ

1245

昭和13年12月16日　在ハルビン鶴見総領事より
有田外務大臣宛(電報)

第二回極東ユダヤ人大会を通じた対米世論啓発工作につき請訓

ハルビン　12月16日後発
本　省　12月16日夜着

第二二四號（極祕）

在米大使發閣下宛電報第五六六號ニ關シ

特務機關長ト協議ノ結果當地猶太民會長「カウフマン」ヲシテ今回ノ猶太避難民ニ對シ日滿側カ民族的ニ特ニ排斥ヲ爲シタル事實ナク現ニ十二月三日新京ニ於テ橋本協和會本部長カ「カ」ト會見ノ際（拙電第二一四號御參照）與ヘタル在滿猶太民族ニ對スル保障（滿洲國ハ民族協和ヲ國是ト爲シ居ルニ顧ミ政策的ニ在滿猶太人ヲ壓迫スルカ如キコトナキヲ以テ國法ヲ遵守シ從來通リ安ンシテ平和ナル生活ヲ續ケンコトヲ希望ス云々）ニ依ルモ明カナル旨來ル二十六日ヨリ開催ノ極東猶太民族第一回大會ノ席上ニ於テ演說披露セシメ之ヲ當地通信員ヲシテ米國方面ニ「キヤリー」セシムルト共ニ豫メ右演說要領ヲ在米大使ヲ通シ「ジツクマン」ニ通報シ同人ヲシテ適當之ヲ利用セシムルコトニ不取敢話合ヲ纏メタルカ右ニ御差支アラハ何分ノ儀電報アリタシ

滿へ轉電セリ

1246

昭和13年12月20日　在伊国阪本臨時代理大使より
有田外務大臣宛（電報）

日本は反ユダヤ主義を採っていないとの法王庁機関紙の記事につき報告

ローマ　12月20日後発
本　省　12月21日後着

第五一〇號

十九日法皇廳機關紙「オツセルバトーレ・ロマーノ」ハ東京通信トシテ「東京ニ反猶太主義ナシ」ト題シ最近諸外國中ニハ日獨文化協定成立ニ依リ日本モ反猶太主義ヲ採ルカ如ク（神戶音樂學校教師ノ解職ハ其ノ一例）報セルモノアルモ右ハ同盟ニ依リ全然無根ナリト打消サレタルコト又「ジヤパンタイムス」カ社說ニ於テ右ノ如キ報道ハ本邦ノ國家組織ヲ解セサルニ基クモノニシテ日本ハ平和會議ニ於テ人種平等ヲ唱ヘタル第一ノ國ニシテ人種的偏見ヲ遠サクル國ナルコト日本政府ハ人種問題ニ關シテハ必スシモ友邦ト規（軌カ）ヲ一ニセス獨自ノ道ヲ辿ルモノナルコトヲ述ヘタル旨ヲ報道セリ

1247

昭和13年12月22日　在伊国阪本臨時代理大使より有田外務大臣宛（電報）

ユダヤ人問題に関するわが方立場を伊国外務次官へ説明について

ローマ　12月22日後発
本　省　12月23日前着

第五一四號

貴電合第三五四四號ニ關シ（猶太避難民ニ關スル件）

猶太主義ト共產主義トヲ同一視シ居ル當國人ハ多數ノ猶太人避難民カ上海方面ニ赴キツツアル事實ヲ日滿及新支那ノ爲遺憾トシツツアル處今次「オセルバトーレ」ノ記事ノ如キハ防共協定締結國タル本邦ノ態度ニ關シ當國人ノ疑惑ヲ惹起スル惧アリト認メラレタルニ付二十一日外務次官ト面會ノ序ヲ以テ本邦ノ立場ヲ說明シ人種平等ニ關スル我方年來ノ主張ニモ鑑ミ此ノ際獨伊ノ如キ措置ニ出ツルコトハ困難ナルモ事實問題トシテハ外國人入國取締規則ノ極メテ嚴格ナル適用ニ依リ猶太人殊ニ共產系ノ入國ヲ極力阻止スルニ努メツツアル次第ナルニ付誤解ナキ樣願度シト述ヘタル處次官ハ之ヲ了承シ元來猶太人自ラ賤民ト稱シ其ノ人種ヲ劣視シ之ト同化スルヲ潔シトセサルモノナルニ付國民主義ヲ奉スル國家ハ何レモ自衞上斯ル破壞的「バチルス」ヲ驅逐スルノ外途ナク此ノ點ハ東亞ニ於テモ充分御警戒ノ要アルヘシト語リタリ御參考迄

獨、維納へ暗送セリ

1248

昭和13年12月23日　在独国大島大使より有田外務大臣宛（電報）

中国および満州国へのユダヤ人避難民の渡航に適当の制限を加えるべき旨意見具申

ベルリン　12月23日前着
本　省　12月23日夜着

第七九〇號

貴電合第三五四四號ニ關シ（猶太避難民ニ關スル件）

其ノ後當方ニ於テハ滿洲國公使館及郵船會社支店トモ聯絡シ殺到スル猶太人ノ應接ニ當リ居ル處滿洲國及支那ヘノ入國ニ關シテハ先般情報部長ヨリ何等制限ヲ加ヘ居ラストノ聲明モアリタルコトトテ希望者ヨリ續々問合アリ冒頭貴電ノ趣旨ニ依リ然ルヘク應接シ居レルモ渡航希望者ハ日ニ增

加ノ形勢ニアリ船會社方面ノ情報ニ依ルニ既ニ極東方面向切符ヲ購入シ又ハ申込ミタル者約六千人（伊太利船三千人、獨逸船二千人、郵船會社五百人、其ノ他約五百人）ニ達スル由ニテ他方當地支那公使館ハ上海其ノ他支那各地渡航希望者ニ對シ査證料又ハ證據金等トシテ一千乃至五千馬克ヲ徴收シツツアル由ナリ上海等ニ於テ猶太人ノ入支ヲ阻止スルコトニハ技術的ノ困難モアルヘキモ世界ノ各地ニ於テ入國ヲ拒絶セラレ居ル獨逸猶太人ハ極東ヲ唯一ノ避難所ト考ヘ居リ而シテ是等猶太人ノ獨逸ニ對スル感情ヲ考フレハ日本ニ對スル態度惡カルヘキコトハ當然豫期スヘキコトナルヲ以テ是等事實上無國籍人ニモ比スヘキ避難民ニ付テハ支那及滿洲ニ於テモ速ニ適當ナル制限ヲ加フルノ要アリト思考ス

尚最近支那及滿洲國ニ渡來セル猶太人ノ數電報ヲ請フ

1249

昭和13年12月26日　在上海後藤（鎰尾）総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

上海共同租界へのユダヤ人避難民の収容は困難であり関係国領事に適当な措置を要望する旨の工部局提案について

上　海　12月26日後発
本　省　12月26日夜着
第三八〇五號
往電第三六三二號ニ關シ

一、十二月二十三日附ヲ以テ工部局議長「フランクリン」ヨリ首席領事宛上海共同租界ハ最近歐洲ヨリノ猶太人避難民ノ殺到ニ惱マサレ居レルカ上海ニハ既ニ現實ノ難民問題アリ工部局及個人的慈善團體ノ財源ハ右ニテ手一杯ナルニ付現在以上ニ避難民ヲ收容スルハ租界ノ生活ヲ脅ス次第ナル處工部局トシテハ關係領事ニ於テ右避難民ノ到着ヲ禁止スル爲其ノ權限内ニ於ケル措置ヲ講セラレンコトヲ希望ス工部局トシテモ租界ヲ保護スル爲生活ノ手段又ハ就職先ノ約束ナキ猶太人避難民ノ上陸ヲ禁止スル義務アリト思考スト述ヘ右ノ次第ヲ關係國領事ヨリ關係團體及船舶會社ニ通達アリタシ又工部局ノ見解カ領事團ノ承認ヲ得ヘキコトヲ希望スル旨通報スル所アリ首席領事ヨリ右「フ」ノ見解ヲ支持スルト共ニ右ニ關スル領事團ノ意嚮ヲ承知シ度ク又貧窮避難民ハ上海ニ上陸ヲ許サレ

サルヲ情報トシテ適當ナル方法ニ依リ撒布スルコトカ右目的達成上有效ナルヘシトノ「コムメント」ヲ附シ領事團ニ廻付スル所アリタリ

三、右工部局提案ハ猶太人問題ニ對スル我方ノ方針ニモ合致シ居ルモノト認メラルルニ付本官ヨリ右ニ贊意ヲ表スルト共ニ關係船舶會社ニハ然ルヘク命令シ置キタル旨回答スルコト然ルヘシト思考セラルル處右ニ關シ何分ノ儀御回電ヲ請フ(隈部書記官ト協議濟)

香港、臺灣外務部長ヘ轉電アリタシ

南京、天津、青島、北京ヘ轉電セリ

1250

昭和13年12月29日　在ハルビン鶴見總領事より
有田外務大臣宛(電報)

第二回極東ユダヤ人大会に関する対外宣伝方策につき報告

別　電　昭和十三年十二月二十九日発在ハルビン鶴見総領事より有田外務大臣宛第二三八号

右大会の状況および決議要領

ハルビン　12月29日後発
本　省　12月29日夜着

第二三七號(極祕)

往電第二二九號ニ關シ

一、極東猶太民族大會ハ二十八日夜無事閉會上海、天津、青島其ノ他各地ヨリノ參集代表者ハ何レモ新ナル感激ヲ以テ夫々歸途ニ就クコトトナレルカ大會ヲ通シ獨逸政府ノ猶太人排斥政策ニハ何等觸ルル所ナク日滿依存ノ精神協調セラレ猶太民族指導上大ナル效果ヲ擧ケタルモノト觀察セラル

二、今次大會ニ關スル對外宣傳方策トシテハ㈠大會ノ狀況竝ニ決議ノ要領(別電第二三八號)ヲ㈠在紐育亞米利加猶太協會㈡在倫敦猶太人代表協議會㈢在巴里世界猶太協會常置機關㈡在上海猶太電報通信員ニ當地猶太民會長「カウフマン」名義ニテ二十九日電報シ夫々機關紙ニ揭載セシムル樣手配ス㈡大會ノ經過內容ヲ英語及猶太語ヲ以テ印刷シ前記各機關ノ外ニ在米(三十種)及在英(八種)ノ猶太個人經營新聞社ニ郵報ス㈢大會ヲ主題トスル極東猶太人ノ狀況ヲ英、露、猶太語「パンフレツト」(約千五百部)

ニ作成シ前記㈠㈡ノ機關及全世界猶太關係團体著名猶太人等ニ夫々配布スルコトトナレリ

別電ト共ニ滿、上海、天津、青島ヘ轉電セリ

御裁量ニ依リ英、米、佛、紐育ヘ轉電アリタシ

（別　電）

ハルビン　12月29日後発
本　省　12月30日前着

第二三八號

二十六日極東猶太民族大會ハ盛會裡ニ開催セラレタリ

議長「カウフマン」博士ハ開會ノ辭ニ次イテ臨席セル日滿要人竝ニ在哈諸機關代表ニ對シ日滿兩國カ猶太人ニ與ヘラレタル好意ヲ感謝シ世界猶太民族ノ概況ヲ述ヘ猶太民族會議一箇年間ノ業績ヲ說明シ日滿當局カ世界的受難期ニ在ル猶太民族ニ對シ人種的無差別平等ノ權利ヲ認メ猶太民族的ノ權利卽チ文化、宗教等ノ實際的確立ヲ與ヘタル同情的態度ヲ支持シ更ニ之カ現實ニ行ハレアリ且又民族協和團體總裁タル橋本將軍ニ於テ表明セラレタル保障聲明卽チ「滿洲國ハ猶太民族ニ對スル平等連理ヲ認メ民族的壓迫、反猶太民族的運動等ヲ許ササルヲ以テ猶太民衆各自安心シテ日滿兩國ニ對スル自己ノ義務ヲ守ルヘキ」ヲ繰返セリ次イテ臨場セル來賓代表ハ猶太民族ニ對シ人種的偏見ナキ平和ナル生活及勤勞ニ付テ確言セリ茲ニ於テ大會ハ次ノ如キ決議ヲ爲セリ（往電第二三〇號ノ通リ）

引續キ民族會議ハ猶太民族ノ宗教、民族、文化、教育、社會經濟方面ノ重要問題ニ付審議セリ

嘗テ滿洲國內ニ歐洲ヨリ入リ來レル猶太人避難民ノ件ニ對スル錯誤ハ偶然的現象ニシテ旣ニ解消セリ

民族協和、民族平等ハ滿洲帝國ノ國是ナリ但シ各民族ノ平和的生活ハ國法ノ示ス所ヲ忠實ニ守ルコトニ於テノミ許サレ且保護サレ得ルモノナリ

本民族大會ハ全猶太民族ニ對シ重大ナル意義ヲ有スルモノナルヲ以テ極東猶太民族大會ノ名ヲ以テ言論機關ニ揭載アランコトヲ切望ス

在滿大使、天津、上海、青島ヘ轉電セリ

1251

昭和13年12月30日　有田外務大臣より
在上海後藤総領事代理宛（電報）

ユダヤ人避難民問題に関する上海共同租界工部局の提案につき対処振り訓令

本　省　12月30日後7時55分発

第二〇六八號

貴電第三八〇五號ニ關シ

猶太人問題ニ就テハ日獨親善關係ニ影響アラシメサル樣措置スル必要アルハ勿論ナルモ一方取扱振如何ニ依リテハ直チニ米國ノ猶太系商人ヲ刺戟シ我對米工作ニ影響スル所尠ナカラス現ニ西比利亞經由ノ猶太難民ニ對スル日滿官憲ノ取扱振ニ關スル誤報カ米國内ニ於テ相當ノ反響ヲ起サントシタル事例モアリ旁々工部局邊リノ申出ヲ餘リ眞面目ニ取上クルコトハ右ノ如キ危險無シトセサルニ付本件工部局及首席領事提案ニ對シテハ成ル可ク不即不離ノ態度ヲ以テ臨ムコト然ル可ク差當リ「國籍又ハ origin ノ如何ニ不拘共同租界内ノ治安改善ニ妨アルカ如キ分子ノ增加ハ希望セサルニ付工部局カ此ノ目的ヲ以テ採ルコトアルヘキ手段ニ付テハ實際上可能ナル範圍ニ於テ所要ノ協力ヲ爲スコトヲ考究スヘシ」トノ趣旨ヲ述ヘ置カルルコトト致度

尙本件猶太人排斥ハ成ル可ク工部局側ノ責任ナルカ如ク宣傳方考究セラレ我方自身カ問題ノ卷添トナラサル樣可然取計ハレ度

南京、天津、青島、北京、香港ニ轉電セリ

1252

昭和14年4月17日　有田外務大臣より在上海三浦總領事宛（電報）

ユダヤ人避難民問題に関する具体的施策立案のため陸海軍側と協力し現地調査方訓令

本　省　4月17日後3時10分発

第五六八號（至急、極祕）

猶太避難民及在支猶太人ニ對スル具体的施策ニ關スル調査ニ付テハ現地ニ於テ御配慮中ト存スル處本省及陸海軍ノ間ニ於テハ此際猶太問題ニ付特ニ造詣深キ者ヲ派遣シ現地各機關内ニアリテ各互ニ密接ナル連絡ヲ執リ約一個月ノ予定ヲ以テ㈠避難猶太人ノ居住區域設定㈡上海猶太財閥對策㈢猶太資本誘致ノ可能性㈣對米關係上在支猶太勢力ノ利用ノ四項ニ付共同ニテ研究及調査（右㈡以下ハ密カニ脈ヲ引ク程度トシ實際工作ニ及ハサルヤウ陸軍側ヨリ希望シ居レリ）ヲナサシムルコトニ申合セ陸軍ハ大連特務機關長安江大佐

ヲ四月下旬ヨリ約一個月貴地ニ出張セシムルコトニ目下協議中ナルカ海軍ハ犬塚大佐ヲ支那方面艦隊司令部附トシテ約三ケ月間貴地ニ滞在セシムルコトトナリ同大佐ハ十七日貴地着ノ予定ナリ

右ニ對シ我方トシテハ元來猶太問題カ當方ノ主務ナル關係ト同問題カ貴地ニ於テ益々重大化シツツアリ現ニ今次議會ニ於テモ縷々質問セル者アリタル等ノ事情ニ顧ミ此際貴館猶太問題主任官ヲ定メ右陸海側調査員ト十分協力シ共同調査ニ當ラシメラルルヤウ致度キニ付可然御取計相成度シ右申合及陸軍側希望事項郵送ス

1253

昭和14年5月26日　在上海佐藤総領事代理より有田外務大臣宛（電報）

安江・犬塚両大佐らがユダヤ人協会のサスーン会長らと会見について

付　記　昭和十四年五月二十五日

右会見要旨

上　海　5月26日後発
本　省　5月26日夜着

第一四四九號

二十五日猶太避難民處置問題ニ關シ猶太人協會首腦者ノ意嚮ヲ聽取スル爲安江、犬塚兩大佐石黒領事（現地委員會）同會々長「ビクター・サツスーン」及理事長「ハイム」ニ會見セリ先方ハ當方ノ本問題ニ對スル配慮ヲ多トシ會見ノ結果良好ナリト判斷セラル對策考究中委細郵報

右現地委員會ヨリノ電報トシテ陸海軍ニ御傳ヘ請フ

（付　記）

五月二十五日猶太調査委員ト「ヴイクター・サツスーン」及「ヘーム」トノ會見ノ要旨

註　「ヘーム」ハ「サツスーン」ノ政治顧問ニシテ救濟委員會理事長ナリ。

日本側
石黒領事
安江大佐
犬塚大佐

一、猶太避難民ニ對スル委員會ノ方針

救濟委員會トシテハ救濟ノ爲其日々々ニ追ハレ居リ且基

金極メテ少額ニシテ困難ヲ痛感シツツアリテ今後ノ對策ヲ如何ニスルヤ見當付カサル現狀ナリ

本問題ノ根源ハ獨逸カ無制限ニ猶太人ヲ放出シ居ルニアルヲ以テ之ヲ防止スルヲ最善策トスヘキモ委員會ニ於テ曩ニ各國領事ヲ通シ獨逸ノ猶太人放出ヲ「デスカレツヂ」スル樣嘆願セルモ效果ナシ日本ヨリ獨逸ニ交涉セラルレハ效果アリト信ス

三、救濟ノ現狀

避難民中九千人ハ救濟ヲ要シタルカ就職其ノ他自活シ得ルニ至ルモノヲ除キ約三千人ハ委員會ニ於テ衣食住ヲ全部世話シ居レリ右ニ對シテハ當地各國官民ヨリ多大ノ援助ヲ得テ(例ヘハ家屋水道電氣ノ無償使用、砂糖其ノ他食料品ノ提供)辛シテ日々ノ食事ヲ給シ居ル現狀ナリ

三、流入制限措置ヲ講シタル場合猶太一般ニ與フル印象

委員會トシテハ何等カノ方法ニ依リ之ヲ制限シ得レハ結構ナリ又制限スルコトハ卽チ當地猶太避難民ノ福利增進ノ爲ナルヲ以テ(世界各地ノ猶太敎會ニハ當地避難民ノ實狀ヲ通報シアリ)一般猶太人ニ於テ惡印象ヲ受ケ又ハ當地委員會カ非難セラルルカ如キ事絕對ニナシ

四、流入猶太人ノ數及他ヘ轉出ノ可能性

現在二、三隻ノ船カ猶太人ヲ滿載シテ上海ニ向ヒツツアリ獨逸政府ハ之等船舶ヲ傭船シ居ルモノナルカ「スエズ」運河ヲ通過スル時ハ稅金ヲ課セラルルヲ以テ之ヲ遁ルル爲「ケープタウン」廻リニテ來ルモノモアルカ如キ實狀ナリ上海ニ來レルモノニシテ濠洲、米國等ニ再渡航セルモノ若干アルモ右ハ獨逸本國ニ於テ査證カ間ニ合ハサリシ爲ニシテ極メテ少數ニ限ラル、當地ニ落着タルモノカ他ヘ轉出スルコトハ關係國カ査證ヲ與ヘサル關係モアリ殆ト望ミナシト觀測ス

五、滿獨交涉ニ依リ財產ヲ獨逸ヨリ持出サシムル案

避難民カ無一文ニテ來ルコトカ困難ノ原因ナルカ滿洲ヨリ獨逸ニ交涉シ獨逸政府カ猶太人ヨリ取上ケテ作リタル基金ノ一部ヲ商品ノ形ニシテ滿洲ニ輸出セシメ滿洲政府ニ於テ其ノ代金ヲ避難民ニ與フルコト可能ナルヘシ、獨逸ハ右ノ如ク商品ニテ持出サシムル案ヲ英米等ト交涉セルモ條件折合ハス實現セサリキ

日滿ハ獨逸トノ間ニ半額磅ニテ卽金拂等ノ方法ニテ商品ヲ購入スル協定アルヲ以テ本件ニ關シテモ滿洲ニ於テ商

品ノ半額ヲ磅ニテ獨逸ニ支拂ヒ半額ハ圓ニテ避難民ニ與フル等ノ方法ニヨレハ實現困難ナラスト思考ス、右ハ日本ニトリテモ好都合ナラン

六、日本側ニ收容所斡旋ノ希望

上海北部方面ニ於テ家屋拂底シ居ルハ充分承知シ居レルモ倉庫學校等雨ヲ凌ク屋根サエアレハ結構ナルニ付何等カ避難民ノ爲ニ斡旋アラハ感謝ニ堪ヘス但(右ハ極メテ困難ニシテ少ク共修繕セサレハ使用出來サルヘキコトヲ指摘セルニ對シ)經費ヲカケルコトハ基金缺乏シ居ル此際至難ナリ

七、其ノ他

㈠日本側ニ於テ御希望ナラハ收容所ヲ御覽ニ入レ度英國大使初メ既ニ檢分セラレタリ

㈡日本側ニ於テ本件ニ關シ情報ヲ要スルナラハ何ナリト提供スヘキニ付御連絡アリ度

㈢各國ハ猶太人ヲ排斥シ居ル中ニ於テ日本ハ同情ヲ有スル唯一ノ國ナルコトハ自分「サッスーン」モ既ニ承知シ大ニ感謝シ居レリ

1254

昭和14年6月10日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛(電報)

現地調査委員会がユダヤ人避難民増加防止に関する措置案作成について

別　電　昭和十四年六月十日発在上海三浦総領事より有田外務大臣宛第一五九九号

右措置案

上　海　6月10日後発
本　省　6月11日前着

第一五九八號

猶太人避難民對策ニ對シテハ現地委員會ニ於テ先般來種々考究中ナリシカ其ノ要諦ハ將來ノ增加ヲ防止スルト共ニ既ニ到着セル者ニ對シ我軍警備區域内ニ特定地域ヲ指定シ居住セシムルニ在リ後者ニ關シテハ現地陸海側ニ於テ考究中ナルカ前者ニ關シ大體別電第一五九九號ノ如キ意見ニ到達セリ(犬塚大佐ヨリ中央ニ送付セル避難民處置案中涉外事項ノ部分ハ別電ノ如ク決定セラレタルモノト御了解得度シ)右中央ニ於テ御審議アリ度ク安江、犬塚兩大佐今月下旬歸京ノ筈

（別　電）

上　海　6月10日後発
本　省　6月11日前着

第一五九九號

現地猶太問題委員會ノ決定事項トシテ左記ノ通リ關係方面ヘモ御通達相成度シ

現地ノ狀況竝ニ主ナル關係方面ノ意嚮ニ鑑ミ上海ニ於ケル猶太避難民處理ノ根本的對策決定迄當分ノ間左ノ處置ヲ執ル事ヲ必要ト認ム

(イ)上海ニ向ケ現ニ航行中ナルモノヲ除キ將來避難民ハ日本軍警備區域ニ關スル限リ上陸ヲ禁止ス

(ロ)猶太委員會及獨伊現地官憲ニ右措置ヲ通報シ上海向ケ避難民ハ今後送付セサルコト然ルヘキ旨ヲ說示ス

(ハ)必要ニ應シ在獨帝國大使ヨリ獨逸政府ニ對シ同趣旨ヲ申入ル

(ニ)日本船舶ヲシテ當分ノ間避難民ヲ輸送セサル樣措置セシムルモノトス

1255

昭和14年6月16日　在ハルビン谷口（卓）総領事代理より在満州国植田大使宛

極東ユダヤ民族会議長カウフマンの訪日感想について

公領機密第三五一號　（6月20日接受）

昭和十四年六月十六日

在哈爾賓
總領事代理　谷口　卓

在滿洲國
特命全權大使　植田　謙吉殿

猶太民會長「カウフマン」ノ訪日感想ニ關シ報告ノ件

六月八日午后八時半ヨリ當市埠頭區砲隊街ノ舊猶太寺院ニ於テ猶太人民會役員會開催セラレ席上「カ」民會長ハ訪日感想ニ關シ次ノ如キ報告演說ヲナセル趣ナリ

劈頭「カ」ハ日本滯在中常ニ日本官民ハ氏ヲ極東猶太民族會議長ノ資格ヲ以テ待遇シ「カ」ニ對スル日本官憲ノ至レリ盡セリノ懇切親善的態度ヲ賞讃シタル後日本要路者ハ日本及滿洲ニ居住スル猶太民族ニ對シテハ絕對的公正ナル方針ヲ持シ此ノ間住民トシテノ諸權利及宗教ニ對シ何等制限

又ハ彈壓ヲ加ヘントスル意向無ク又將來トモ日本ハ若シ猶太人カ必要トスル場合猶太民族ノ爲充分ナル援助ヲ與フルコトヲ日本ノ權威ニカケテ世界諸列强ノ前ニ何憚ル所無ク聲明シ得ルトノ意アルコトヲ知リ得タリ

尙日本當局者ノ一部ニハ猶太宗教ノ教義ト神國日本ノ民族的宗教觀ニ一致點ヲ見出ス旨ヲ漏セリト述ヘ最後ニ「カ」ハ東京滯在中在京外國通信員及日本新聞記者代表トノ會見ニ於テ日本及滿洲ニ於ケル猶太人カ安住業ニ勵ミ居リ「**アンチ、セミチズム**」ノ不快ナル脅威ヲ受クルコト無キ點ヲ强調シ日本官憲ノ好意ニ對スル感謝ノ旨ヲ廣ク聲明セリト結ヒ演說ヲ終ハレリ

要スルニ右報告ハ日本稱讚ノ言辭ヲ以テ始終シ會出席者ニ相當ノ感銘ヲ與ヘタル模樣ナルカ散會ニ際シ某役員カ「權利ノ平等、民族的親善カ事實ナリトセハ何カ故ニ「**カ**」民會長ノ紹介ヲ以テシテモ我カ猶太民族ノ一人モ官廳ニ就職シ得サルニ「**フアシスト**」黨主ノ要請ニ對シテハ自由ニ職ヲ得ラルヤ」ト聲高ニ述ヘタルコノ突然ノ反駁ニ皮肉的爆笑ノ聲上リタルモ「**カ**」ハ何等制止ノ模樣モ無ク引揚ケタル趣ナリ

右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先　外務大臣

1256

昭和14年8月3日　有田外務大臣より在上海三浦總領事宛（電報）

「上海猶太避難民應急對策案」の実施方訓令

付　記　昭和十四年八月三日

「上海猶太避難民應急對策案」

本　省　8月3日後6時0分発

第一一〇七號

一、上海猶太避難民應急對策案ニ關シ南京司令部希望ノ通リ修正（要領三「日本軍警備地域內」ヲ「日本軍占領地區內」ニ修正、要領五「當分ノ間出來得ル限リ」ヲ削除、委員會ニ對スル申出要旨案ノ字句修正ハ本對策案ト直接ノ關係無キヲ以テ貴方ニ於テ可然措置相成度）ノ上外陸海興亞院ニ於テ異存無キコトトナリタルニ付實施方可然御取計相成度當方獨伊兩國政府ヘノ申入ノ期日ハ貴方ノ對外的發動ト時期ヲ同シク致度ニ付右期日前廣ニ囘電アリ度

三、要領四ノ「現ニ上海ニ向ケ航行中ナルモノヲ除ク」ノ點ハ外交交渉上竝ニ郵船ニ對スル示達上期日ヲ確定スルコト適當ナルニ付當方ノ措置トシテハ九月末迄ニ地中海ノ港（事實上伊太利）ヲ出發スルモノヲ除クト致度貴見回電アリ度

三、避難民對策案要領三ノ第二項ニ關シ本件ハ成ルヘク現地問題ト致度ニ付貴地ニ於テ適當措置ヲ講セラレ度

四、二日郵船係員ニ對シ輸送取止方懇談シタル處了承セリ（委細郵報）

（付記）

上海猶太避難民應急對策案

昭和十四年八月三日

陸、海、外、興亞院打合濟

方針

猶太避難民ニ對スル根本的對策確定迄ノ差當リノ措置トシテ左記要領ニ依リ日本軍占領地域内ニ避難民ノ殺到スルヲ阻止スルモノトス

要領

一、現在上海共同租界日本軍警備地域内ニ在ル猶太避難民ノ名簿ヲ猶太避難民委員會ヲ通シテ作成セシメ寫一通ハ本人ヲシテ携帯セシム

但シ各家族ニ付一纏メト爲サシム

本名簿ノ形式ハ別紙（省略）ノ通トス

二、共同租界日本軍警備地域内ニ於ケル避難民委員會ノ收容所其他ニ既ニ合法的ニ居住又ハ營業シアルモノハ差當リ現狀通之ヲ認ム

三、今後新タナル避難民ノ日本軍占領地區内ニ於ケル居住及營業ハ特別ノ場合ヲ除キ暫ク停止スヘキ旨ヲ在上海獨、伊官憲、猶太避難民委員會等關係ノ向ニ通告ス

右實施ニ當リテハ外國側ノ日猶又ハ日獨離間宣傳ニ利用セラレサル如キ措置ヲ講スルモノトス

四、現ニ上海ニ向ケ航行中ナルモノヲ除クノ外將來來ルヘキ避難民ノ日本軍警備地域内ニ進入スルヲ禁止シ新規居住又ハ營業スル者アラハ警備地域外ニ退去セシム

右取締ハ第一項名簿ニ基キ之ヲ行フモ其ノ具體的方法ハ別ニ定ム

但シ成ル可ク避難民委員會ヲ利用スルモノトス

當分ノ間日本船舶ヲシテ今後避難民ヲ運送セサル様措置セシム

三、右現地ノ措置ト併行シ獨、伊兩國政府ニ對シ猶太避難民ヲ上海其他日本軍占領地帶ニ送付セサル様極祕裡且懇談的ニ勸告ス

備　考

猶太避難民ニ關スル根本的具體策ニ就テハ現地各關係機關ニ於テ愼重考究ノ上速ニ策定スルモノトス

1257

昭和14年8月7日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

「上海猶太避難民應急對策案」の実施に伴う関係方面への通告予定について

上　海　8月7日後発
本　省　8月7日夜着

第二二〇〇號（至急）

貴電第一一〇七號ニ關シ（上海猶太避難民應急對策ノ件）

一、避難民委員會及獨伊總領事ニ對スル通告ハ十日ニ行フコトトセリ

二、現ニ上海ニ向ケ航行中ナルモノ云々ニ關シテハ右通告即チ十日以後歐洲ヲ出發セルモノハ之ヲ認メサル建前トシタク少クトモ郵船ニ付テハ之ヲ實施セシメラレタシ（原案ハ其ノ趣旨ナリキ）十日以前ニ出發スルモノヲ現實ニ入ルルヤ否ヤハ現地ノ交渉ニ委サレタシ（八月中ニ到著スルモノ三、四百名アリ之レ位ハ必要アラハ許容シ遣リ差支ナカルヘシ）就テハ右ニ依リ可然御取計相成度シ委員會方面ニハ既ニ非公式内話シ本對策ニ協力スヘキ旨約束ヲシ居レリ

1258

昭和14年8月9日　有田外務大臣より在独国大島大使宛（電報）

ユダヤ人避難民を中国内の日本軍占領地域へ送出しないよう独国政府へ要請方訓令

本　省　8月9日後7時30分発

第四九一號（極祕）

事變以來猶太避難民ニシテ上海ニ渡航シ來タル者多ク最近益々其ノ數ヲ加ヘ既ニ上海全体ニ壹萬人我軍警備區域内ニ五千名以上ニ達シ其ノ大部分ハ無資力ニテ住居職業無ク猶

太避難民委員會ノ救濟ヲ受ケ居ル狀態ナリ而シテ今後避難民ノ來航益々增加ヲ豫想セラルル處我軍警備地區タル上海北部ハ未ダ平常化セズ且又戰禍ヲ受ケ家屋拂底シ居リ支那人ノ自由復歸ヲ許サザルハ勿論日本人ノ復歸モ無制限ニハ許容シ居ラザル次第ニシテ是レ以上猶太人ヲ入ルルコトハ事情許サズ然ルニ共同租界及佛租界ハ家屋滿員ニシテ猶太人ヲ容ルルノ餘地ナキヲ以テ今後到著スベキ避難民ハ其ノ好ムト好マザルトニ拘ラズ我警備區域內卽チ日本人ノ居住圈內ニ侵入シ來タルベシ

我國策トシテハ猶太人ニ對シ第三國人ト區別シ特殊ノ取扱ヲナスモノニ非ラザルモ上海ニ關スル限リ現在以上ニ猶太避難民ガ來航シ我警備區域內ニ侵入シ來タルハ我警備軍ノ荷厄介トナルノミナラズ重大ナル治安問題ニ進展スル惧レモアリ依ツテ數ケ月來現地及東京ニ於テ關係省ノ間ニ對策ヲ研究中ナリシ處現在入域セルモノハ合法的ニ居住營業ヲ許スモ避難民ニ對スル根本對策確定迄差當リノ措置トシテ避難民ノ殺到ヲ阻止スルコトニ決定ヲ見タル次第ナリ

就テハ貴大使ハ貴任國政府ニ對シ上海ニ於ケル現狀ヲ詳細說明ノ上今後避難民ヲ上海其ノ他日本軍占領地帶ニ送出セサル樣懇談相成度（上海ニ於テハ十日獨伊兩國總領事ニ對シ同日以後ハ入域ヲ阻止スル旨通告ノ筈、十日以後歐洲ヲ出發スルモノハ建前トシテハ入域ヲ認メス、十日以前出發ノモノヲ現實ニ入ルルヤ否ヤハ現地ニ於テ適當措置ノ筈）

尙外國側ノ日本ト猶太人又ハ日獨伊離間宣傳ニ利用セラレサルタメ本件交涉ハ極祕裡ニ行ハルル樣致度

尙又本件避難民ノ大部分ハ伊國船舶ニテ輸送セラレ居ル處日本郵船ニ對シテハ輸送停止方申聞ケ諒承濟ナリ（八月十四日「ナポリ」出帆白山丸ハ差止メ或ハ困難ナルヤノ趣ナリ）

本大臣ノ訓令トシテ伊ニ轉電アリ度

英、佛ニ轉電アリ度

上海へ轉電セリ

1259

昭和14年8月10日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

「上海猶太避難民應急對策案」の実施に際し避難民救済委員会委員長へ覚書手交について

付記　昭和十四年八月九日付

右覚書

上　海　8月10日後発
本　省　8月10日夜着

第二一三二號（至急）

往電第二二〇〇號ニ關シ（上海猶太人避難民應急對策ノ件）本十日避難民救濟委員會（「コンミッテイ、オブ、アシスタンス、オブ、ユロピアン、レフイジ、イン、シヤンハイ」）委員長「ハイム」ヲ招致シ艦隊參謀及犬塚大佐立會ノ上別電第二一三四號（編注）「メモランダム」ヲ手交シ「ハ」之ヲ受諾シ登錄ニ著手スルコトトナレリ（獨伊交涉ニ付テハ同人限リ極祕ノ含ニテ內話シ置キタリ）細目ニ關スル打合左ノ通リ

㈠前記「メモランダム」ノ趣旨概要ヲ委員會ヨリ英、米、佛、獨關係方面ノ猶太團體宛直ニ電報シ日獨離間宣傳ニ備フ

（十二日委員會ヨリ登錄スヘキ旨告示シ同時ニ海軍側ヨリ登錄セサル者ハ退去セシムヘキ旨ノ警告ヲ發表ス）

㈡登錄受理ハ二十二日限リトスルモ八月中ニ到着スル者ニシテ北部地區ニ居住ヲ欲スル者ハ之ヲ許容ス

別電ハ機微ナル關係モアリ其ノ儘公表セサル樣致度シ

本電別電ト共ニ南京、北京、天津ニ轉電セリ

編注　別電省略。本文書付記を参照。

（付記）

MEMORANDUM

For some time past Jewish refugees were coming into Shanghai in large numbers, and still more of them are expected to follow in the future.

In the spirit that all races are equal, and sympathizing with the plight of the Jewish people, the Japanese Authorities have thus far placed no restriction upon their coming into the area controlled by the Japanese forces. Hence in the northern section of the International Settlement over 5000 refugees are estimated to be living and pursuing their trade. The humanitarian attitude of the Japanese Authorities would be much appreciated especially in view of the fact that this area has not returned to normalcy as yet and the havoc wrought by the hostilities has caused a dearth

of houses there. It is to be noted with particular attention that even the return of the Japanese to this area is not permitted unrestrictedly, not to mention the free return of the Chinese.

As an influx of refugees in exceedingly large numbers will have a direct bearing in numerous ways on the plan of reconstruction of the war-torn areas, it has lately been a subject of the most serious consideration of the Japanese Authorities. In the meanwhile, it was made clear that the Jewish leaders among the Refugee Committee wished to see, for the benefit of the refugees already arrived in Shanghai, that further influx be discouraged in some way or other. Taking into account relevant matters, including the interest of all the parties concerned, the Japanese authorities have reached the conclusion that they should take such steps as are within their power to stop temporarily a further increase of European refugees to the existing number, pending the study of the possibility of accommodating a greater number of refugees in Shanghai.

The temporary steps to be taken by the Japanese authorities are as follows.

1) The refugees residing in the northern section of the International Settlement under Japanese occupation on 22nd August are to fill in all the required particulars in two copies of the "Directory of Jewish Refugees", and forward them to the Japanese authorities through the Committee. (Copies for one family are to be put together in one batch).

2) Upon inspection by the Japanese authorities, one of the copies is to be returned to the person who forwarded them.

3) All the refugees in possession of the returned copy are to be allowed to reside as heretofore.

4) Those who continue to reside, or take up their residence anew, in the said area without possessing the card may be asked to evacuate therefrom.

The Committee is requested to take suitable measures in accordance with the above and to use its influence in order to effect satisfactory registration and prevent newcomers in the said area.

Shanghai, August 9th, 1939.

1260

昭和14年8月10日　在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛（電報）

「上海猶太避難民應急對策案」の実施に際し独伊両国総領事へ書簡送付について

付　記　昭和十四年八月十日付
右対独書簡

上　海　8月10日後発
本　省　8月10日夜着

第二一三八號（至急）
往電第二一三三號ニ關シ
十日附ヲ以テ獨伊總領事ニ對シ別電（編注）第二一三九號及第二一四〇號ノ通リ書翰ヲ送付シ置キタリ
別電ト共ニ北京、天津、南京ニ轉電セリ

編　注　別電はすべて省略。対独書簡については本文書付記を参照。なお、イタリアに対しては同十日付書簡に対独書簡の写しを添付して送付した。

（付　記）

No.40.　August 10th, 1939.

Sir and dear Colleague,

For some time past German Jewish refugees were coming into Shanghai in large numbers, and still more are expected to follow in the future.

You are no doubt well aware that the Japanese Authorities have thus far placed no restriction upon their coming into the area controlled by the Japanese forces. Hence in the northern section of the International Settlement over 5000 refugees are estimated to be living and pursuing their trade. I am sure that the humanitarian attitude of the Japanese Authorities will be much appreciated, especially in view of the fact that this area has not returned to normalcy as yet and the havoc wrought by the hostilities has caused a dearth of houses there. It is to be noted with particular attention that even the return of the Japanese to this area is not permitted unrestrictedly, not to mention the free return of the Chinese.

As an influx of refugees in exceedingly large numbers will have a direct bearing in numerous ways on the plan of recon-

struction of the war-torn areas, it has lately been a subject of the most serious consideration of the Japanese Authorities. In view of the existing circumstances, and especially the extraordinary situation as mentioned above, they are now constrained to adopt certain measures to stem a further flow of the Jewish refugees into the said area pending a fundamental solution.

The measures to be adopted are to investigate the refugees residing in the northern section of the International Settlement through the Refugee Committee, to deliver a copy of investigated particulars to each resident, and to allow those who possess the copy to reside and pursue their trade as heretofore, while those who do not may be deported therefrom.

I hope you will understand that the above measures are of temporary nature which the Japanese Authorities were obliged to take, and I have the honour to suggest that I would be gratified if you could arrest the attention of your Government, so that they might take steps within their power to stop the emigration of Jewish refugees to Shanghai, because such steps would, in the light of the local situation, save various frictions and benefit the refugees already arrived.

I have the honour to be,
Sir and dear Colleague,
Your obedient servant,
(Sgd.) Y. Miura
Consul-General.

Dr. E. Bracklo,
Acting Consul-General for Germany, SHANGHAI.

1261

昭和14年8月12日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

日本軍占領地域へのユダヤ人避難民入域制限に関し英国総領事へ事情説明について

上海　8月12日後発
本省　8月12日夜着

第一一一六〇號

往電(1)第一一一八號ニ關シ

十一日英國總領事「フイリップス」本官ヲ來訪シ避難民委員會「ハイム」ヨリ日本側ニ於テ北部地域ニ避難民ノ侵入

スルヲ制限スルコトトナレルカ右ハ猶太人ニ取リ將又上海自體ニ取リテモ由々シキ大事ナルニ付直ニ領事團會議開催方取計ハレタキ旨申出アリタル處日本側カ突然嚴重ナル制限ヲ加フルコトハ上海ヲ非常ナル困難ニ陥ラシムルコト極メテ明カナル一方元來本件ハ多數ノ避難民ヲ續々當方面ニ送出ス獨伊兩國政府ニ自制方ヲ交渉スルコトコソ先決問題ナリ就テハ本件處理ニ當リテハ日本側ニ於テ出來得ル限リ合法的ニ行動セラレンコトヲ希望スル旨申述ヘタルニ付本官ヨリ支那人ハ勿論日本人サヘ復歸ヲ許シ居ラサル地區ニ既ニ五千人ノ猶太人カ入込ミ居レル現狀ヲ此ノ儘放任スルノ困難ナルコトハ說明ヲ俟タスシテ明カナリ

又今回ノ日本側ノ措置ハ根本的對策樹立ニ至ル迄ノ過渡的辨法ニ過キサルモノナルカ其ノ他ノ點ニ付テモ日本ハ既ニ合理的ニ行動シツツアルモノト承知アリタシト答ヘタルニ同總領事ハ今次ノ日本側措置カ過渡的辨法ナルコト竝ニ其ノ他ノ點ニ付テモ合理的ナル方途ヲ講セラレ居ルコトヲ承知シ安心セリト述ヘタリ

依テ本官ヨリ元來本件ハ獨逸人タル猶太人ノ始末ニ付日本側ヨリ其ノ團體タル委員會ヲ相手ニ話シ居ル際其ノ委員會（長カ）カ偶々英國人ナリトテ英國側ニ於テ本問題ヲ取上ケラルルハ筋違ナルヘキ旨注意ヲ喚起セル處「フイ」モ之ヲ認メ確ニ奇妙ナル「ケース」ナルヲ以テ極メテ非公式ニ御話セル次第ナリト述ヘ辭去シタリ

尙前記ノ如ク「ハイム」カ英國總領事ニ「アプローチ」セルハ當方トシテ不滿足ニ思考シ居ルニ付然ルヘキ機會ニ注意ヲ喚起シタキ所存ナリ

北京、天津、南京へ轉電セリ

1262

昭和14年8月14日　在独国大島大使より
有田外務大臣宛（電報）

中国内の日本軍占領地域へユダヤ人避難民を送出しないよう独国政府に申入れについて

ベルリン　8月14日後発
本　省　8月15日前着

第八〇三號

貴電第四九一號ニ關シ

十二日宇佐美ヲシテ「ヴエーアマン」次官ヲ訪問冒頭貴電ノ趣旨ヲ申入レシメタルニ同次官ハ之ヲ諒承シ既ニ現地ヨ

リモ報告ニ接シ居リ上海ニ猶太人避難民ヲ送出ササル様手配濟ナルカ御申入ハ上海ノミナラス其ノ他ノ支那各地ヲ含ム次第ナリヤト述ヘタルニ付宇佐美ハ日本軍占領地帶全般ナリト答ヘ置キタル趣ナリ

尚十四日當地「ラヂオ」ハ支那ニテ猶太人避難民ノ入國禁止セラレタルカ結構ナルコトナリトノ趣旨ヲ放送シタリ伊ヘ轉電セリ

1263

昭和14年8月15日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民に対し日本と同様の措置をとるとの上海共同租界および仏租界当局よりの通報について

上　海　8月15日後発
本　省　8月15日夜着

第二二八二號

往電第二二六〇號ニ關シ

共同租界ニ於テモ日本側措置ト同様現在以上ノ避難民侵入ヲ阻止スルコトトナレル趣ニテ十四日附祕書長「フイリップ」ヨリ本件ニ對シ共同租界ニ於テモ今後避難民ノ侵入ヲ阻止スルコトトナリタル趣ヲ以テ右參事會ノ決議ヲ關係當局及船會社ニ通報方依頼越スト共ニ既ニ上海向ケ乘船セルモノ多數アル事實ニ鑑ミ日本側ニ於テモ此ノ分ハ人道的見地ヨリ許容スルトノコトナラハ工部局トシテモ協力致度キ旨申越セリ

又本官十四日、佛總領事「ボーデス」ト會見ノ際同總領事ハ佛租界ニ於テモ共同租界ノ措置ト竝行シ避難民ヲ禁止スルコトトナルヘキ旨語リ居タリ

尚冒頭往電末段ノ點係官ヨリ「ハイム」ニ注意ヲ喚起セル處右ハ「ボ」（？）ヨリ英國總領事ニ日本側措置ヲ内報セルニ對シ英總領事ニ於テ自發的ニ本官トノ會談ノ機會ヲ捉ヘ話セルモノニシテ自分ニ於テハ當館トノ直接交涉ヲ避ケ裏面工作ヲ爲ス意向毛頭ナカリシモノニ付了解セラレタキ旨陳辯シ居タル趣ナリ

北京、天津、南京へ轉電セリ

1264

昭和14年8月17日　在上海三浦総領事より有田外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民対策に関する上海共同租界および仏租界側との意見交換について

上　海　8月17日後発
本　省　8月17日夜着

第二三〇七號

往電第二二八二號ニ關シ

共同租界及佛租界ニ於テモ日本側措置ト竝行シテ同樣ノ措置ヲ執ルヘク計畫ヲ進メ細目ノ點ニ付我方ト打合セタキ旨申出アリタルヲ以テ十七日午前共同租界工部局事務總長「フイリツプス」及佛總領事「ボウデーズ」ノ來訪ヲ求メ猶太人避難民ノ來滬阻止方ニ關シ私見ヲ交換シタルカ一應決定シタル所左ノ通リ

一、獨逸船ニ付テハ八月十八日出帆ノ「ポツダム」號、伊太利汽船ニ付テハ十六日出帆ノ「ビヤンカマノ」號、佛國汽船ニ付テハ十八日出帆ノ「アトサ」二世號以後ノ乘客ニ付テハ上陸ヲ認メサルコト（當初我方ニ於テハ十六日以後出帆ノモノニ付之ヲ禁止スルコトニ內定シ居リタルカ「フ」及「ボ」ヨリ各々前記「ポ」及「ア」ノ二船ニ付テハ既ニ上陸ヲ禁止セラルヘキ旨ヲ通達スルノ餘裕ナキヲ以テ特ニ右二船ヲ含マシメラレタキ旨ノ希望アリタルニ依リ海軍側トモ協議ノ上右樣變更シタル次第ナリ尙日本船ハ十四日出帆ノ白山丸ヲ以テ輸送ヲ打切ルコトトナリ居ル趣ナリ）

二、猶太人避難民ノ定義如何及既ニ上海ニ來リ居ル猶太人ノ家族ニ對シ渡航ヲ認ムルヤ否ヤニ關シテモ論議アリタルカ之等ノ點ニ付テハ愼重研究スルノ必要アルヲ以テ日本側及共同租界、佛租界ヨリ各一名ヲ出シ委員會ヲ組織シ具體案ヲ作成セシムルコトトシ右案ノ決定ニ至ル迄ハ前記三船以後ノ船舶ニハ一切猶太人避難民ヲ搭乘セシメサル樣兩租界當局ヨリ關係船會社ニ申渡スコトトシタリ

北京、天津、南京へ轉電セリ

1265

昭和14年11月2日　在上海三浦総領事より
野村外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民の上海入域条件につき報告

上　海　11月2日後発
本　省　11月2日後着

第三〇四七號

貴電第一四五一號ニ關シ（上海共同租界ヘ猶太人上陸問題）

一、日本トシテハ現在共同租界日本軍占領地域內ニ居住シ其ノ旨海軍側ニ登錄濟ナル者以外入域ヲ固ク禁止シ居ル處今般唯例外的暫定措置トシテ右ノ者ノ內資力充分ナル者ノ在歐家族其ノ他ノ關係者ニシテ右地域內居住希望者ノ呼寄ヲ極ク少數ニ限リ許可スヘク之カ爲當館ニ於テ海軍側ト共同審議ノ上許可證ヲ發給スルコトトシ其ノ旨當地避難民委員會宛通告スルト共ニ關係各船會社ニ對シテモ右許可證ヲ所有セサル猶太人ニ對シテハ切符ヲ賣渡ササル樣協力ヲ求メ置ケリ（以上公表セサルコトニ現地打合濟ナルニ付發表差控ヘラレタシ）

二、佛租界當局ハ猶太人ヲ敵人トシテ取扱ヒ同地域入來希望者ハ各個別的ニ考慮スルモ別ニ規定ハ設ケサル方針ナル趣ナルカ共同租界ハ猶太人ニシテ米貨四百弗（十三歲以下ノ小供ハ同百弗）又ハ右ニ相當スル外貨ヲ所持スル者及同租界當局ノ發給セル許可證ヲ有スル者ノ來入ハ之ヲ許可スルコトトシ其ノ旨先般發表セリ

三、右ノ如クナルヲ以テ一定ノ金額ヲ所持スル者（但シ共同租界ニ居住スル者ニ限ル）若ハ當館、共同租界、佛租界當局ノ何レカノ發給セル許可證ヲ有スル者ノミ上海來入ヲ許容セラルルモノナリ

北支其ノ他ヘノ移行ハ當該地方官憲ニ依リ決定セラルヘキモノニシテ當方面トシテハ關知シ居ラス（當地通過ハ許容シ得ヘシ）

尙冒頭貴電御照會ノ點ハ前記ノ通リ共同租界工部局ノミニ關スルコトニシテ日本軍占領區域ニ關シテハ我方獨自ノ立場ヨリ前記ニノ如ク決定セル次第ナリ

右在歐關係各公館ヘモ御通知相成樣致度シ

滿、北京、天津ヘ轉電セリ

1266

昭和14年11月4日　在北京門脇（季光）總領事代理より
野村外務大臣宛（電報）

華北地方でのユダヤ人取扱い振りにつき報告

北　京　11月4日後発
本　省　11月4日後着

第一一四六號

貴電合第二五五二號末段ニ關シ（猶太人避難民中北支入國問題）

北支ニ於ケル猶太人取扱振ニ關シテハ客年往電第一七二八號ノ通リニテ其ノ後モ右方針ニハ變更ナク當地軍當局ニ於テハ天津猶太人協會及鐵道外事警察班等ヲ指導シテ猶太人ノ北支ヘノ入國ハ拒否シツツアルモ一旦上海ヘ入國許可サレタル者ノ移行ニ付テハ禁止シ居ラス尤モ實際上此ノ種猶太人ハ前記協會ニ登錄スルコトヲ必要トシ其ノ際所有ノ旅券ハ沒收シ其ノ代リニ同協會ヨリ身分保證書ヲ發給シ當地方ニ於ケル居住ヲ許可シツツアリ尚獨逸系猶太人ノ旅券沒收ニ付テハ今春來五件アリ最近當地獨逸大使館ヨリ右旅券ノ返還斡旋方申越シタルニ付目下關係方面ト協議中ナリ御參考迄

上海、天津へ轉電セリ

1267

昭和14年11月16日　野村外務大臣より在米国堀内大使宛（電報）

わが方勢力圏内でユダヤ人避難民三万人を収容方米国財界筋から要請との情報につき日本人仲介者の身分等探査方訓令

本　省　11月16日後0時10分発

第四八二號（極祕）

東洋製罐會社其他ノ關係ニテ永ク米國ニ在リタル田村光三ナル者（紐育 West 45th Street 四十五番ニ事務所ヲ有スル由）過般歸朝シ豫テ猶太問題ニ關心ヲ有スル趣ヲ以テ當省及陸海軍側ニ對シ同人カ本年四月紐育ニ於テ「ロングアイランド・マシナリー」會社社長 Frank Garson, Metal and Themit Co. 社長 Hirshland 避難民委員會長 Grunbaum, Rabbi Wise 等ト會談ノ際先方ヨリ獨逸系猶太避難民ニ關シ若シ我カ勢力圏内ニ例ヘハ二年間ニ三萬人收容セラルルニ於テハ米國猶太人ニ於テ金融又ハ物資ノ供給ニ付日本側ノ條件ヲ考慮シ得ヘキ旨語レル由述ヘタリ

右ニ對シ陸海軍中央ニ於テハ現ニ上海我軍警備區域ニ入込ミ居ル猶太避難民約一萬人ノ收容方法ニ付協議中ナル關係モアリ田村ノ話ニ關心ヲ示シ收容ノ可否、可能性及我方條件ニ付テハ篤ト研究スヘキモ前記話合以來相當時日ヲ經過シ居ルニヨリ不取敢田村個人トシテ「ガーソン」等ノ意向ニ變化ナキヤヲ電照セシムルコトトナリタリ

本件ニ付テハ多數避難民收容ニ關スル複雜ナル問題アルノミナラス對米上重大ナル關係モアルヘキニヨリ愼重對處ス

ル要アル處田村ノ身許、本件實現ノ可能性、其他御氣附ノ點電報相成度シ（因ニ本件ニ付テハ桑港貿易斡旋所長渡邊モ承知シ居ル趣ナリ）

本大臣ノ訓令トシテ紐育、桑港ヘ轉電アリ度シ

1268

昭和14年11月24日　在米国堀内大使より野村外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民三万人収容要請に関し日本人仲介者の身分等報告

ワシントン　11月24日後発
本　省　11月25日後着

第一四二二號

貴電第四八二號ニ關シ（猶太避難民收容問題ニ關スル件）

一、紐育ニ於テ調査セシメタル所ニ依レハ田村ハ技術家出身（水產講習所卒業後米國ニテ工業教育ヲ受ク）ニシテ滯米二十年ニ近ク東洋製鑵會社專務高崎達之助私設代表ノ格ニテ三井及三菱ニ依ル同會社ノ製鑵材料買付ヲ監督スル任務ヲ帶ヒ紐育ニ在住シ居タル關係上「ユー、エス、スティル」「ベスレヘム」「ジヨンエンド、ラフリン」等鋼鐵及鉄力關係諸會社ノ幹部ト相當深キ接觸アリ其ノ方面ニ於テハ能力ヲ認メラレ居ルモノニシテ之等ノ關係ヲ利用シ從來モ諸種ノ關係（本邦製鑵側ト米國ノ鉄力トノ「バーター」案トカ或ハ小林一三ノ依賴ニ依ル寶塚少女歌劇ノ米國演出案等）ヲ持チ廻リタル事アル處中ニハ面白キ思付アルモ又他方肝心ナル點ヲ逸シ居ル事多ク旁地道ナル實業家ノ部類ニハ數ヘ難ク前記同人本來ノ職務以外ノ方面ニ付テハ餘リ信用ヲ措キ得サルヤニ認メラル尤モ同人ノ對米人折衝振リハ短刀（單カ）直入的ナル爲時ニハ意外ニ奏效スルコトアリ要スルニ特殊ノ人物ト目セラレ居レリ（商工農林兩省及日本鑵詰協會ノ囑託タル關係上右兩省宛相當意見ヲ進言シ居タルモノノ如シ尚最近東洋製鑵トノ關係ハ切ルル模樣ナリ）

二、田村ノ猶太人財閥利用案ニ付テハ判明セサルモ在米猶太人カ滿支ニ於ケル我猶太人政策ノ動向ニ大ナル關心ヲ拂ヒ居ル實狀ニ鑑ミ現地ニ於ケル猶太系避難民收容問題ト絡マセテ其ノ資本誘導ヲ策スル案ハ一ツノ着想タルヲ失ハサルモ假ニ金融可能ノ場合ニ於テモ米國銀行ヲ通シ之ヲナス時ハ稍長期ノモノニ付テハ米政府ノ了解ヲ取付ク

ル要アルニ付餘程特殊ノ方法ニ依リ金融ヲ實施セシムル案ニアラサル限リ現下ノ狀況ニ於テハ右政府ノ了解取付ハ困難ト認メラルルノミナラス我方カ相手構ハス「クレジツト」取付ニ焦リ居レリトノ印象ヲ米側ニ與フル事ハ甚タ不得策ナルニ鑑ミ本件處置ハ愼重ヲ要スルニ付「ガーソン」等ノ意嚮ヲ夫レトナク打診スル爲紐育總領事館側ヨリ然ルヘキ方法ヲ以テ關係猶太人側ニ非公式ニ當リヲ付ケシムル方法ヲ取ラルル事可然ト存ス（紐育ト協議濟）

紐育へ轉電セリ

1269

昭和15年1月8日　在上海三浦総領事より
野村外務大臣宛

極東ユダヤ人大会の秘密決議につき報告

機密第四一號　（1月12日接受）

昭和十五年一月八日

在上海
總領事　三浦　義秋〔印〕

外務大臣　野村　吉三郎殿

極東猶太大會ニ於ケル祕密決議ニ關スル件

十二月二十三日ヨリ二十六日ニ亘リ哈爾賓ニ於テ開催セラレタル極東猶太人大會ニ關スル當地露字紙記事ハ同月二十二日附機密第四一二五號拙信ヲ以テ報告置ノ次第アリタル處同大會ノ主要目的ハ大連特務機關長安江大佐ノ工作ニ依リ同機關ニテ豫メ作成置ノ一、日本政府ニ對スル猶太特別區設定陳情書二、在北米合衆國猶太人團体ニ對スル特別區建設參加懇請狀ヲ同大會ノ祕密決議トシテ採擇發送ヲ決議スルニ在リ一、ニ於テハ日本政府カ歐洲ヨリノ猶太避難民ニ供與セル便宜竝人道的取扱ニ對シ謝意ヲ表明セル後支那又ハ滿洲ノ一部ヲ猶太避難民ノ爲開放シ特別區ヲ設定サレ度旨陳情シ二、ニ於テハ右案ヲ在米猶太人團体ニ通告スルト共ニ右地區設定計畫ニ對シ在米猶太資本ヲ誘致セントスルモノナル趣ニシテ當地ヨリモ「アシユケナジユーム」代表參加セリ

尙十二月二十三日當地「イヴニング、ポスト」ハ別添記事切抜ノ通リ哈爾賓附近ニ於ケル猶太地區設置竝獨逸ヨリ上海向避難民ノ通過査證下附等ニ關シ滿洲國政府ニ對スル陳情ヲ決議スルニ在リト報セリ右報告ス

本信寫送付先　在滿大使　哈爾賓　在北京一等書記官
天津　南京　在獨　在墺

（新聞切抜省略）

1270

昭和15年1月10日　野村外務大臣より
在米国堀内大使宛（電報）

ユダヤ人避難民三万人収容要請問題の経過について

本　省　1月10日後11時55分発

第四號（極祕）
客年往電第四八二號ニ關シ
猶太避難民ノ收容ニ關スル田村ノ「ガーソン」宛電報ニ對シ十一月下旬「ガ」ヨリ引受數及場所ヲ照會シ來レルニヨリ當時上海ニ在リタル田村ハ當方ニ諮ルコトナク速ニ委員ヲ東京ニ派遣スルヤウ慫慂セルカ之ニ對シ十二月二十日「ガ」ヨリ避難民ノ職業ノ希望、所要ノ人數、收容地、就職ノ保障ニ付照會スルト共ニ政府又ハ信用アル機關ヨリ招請アレハ代表者ヲ派シ得ヘキ旨電報越シタル趣ナリ
然ルニ本件ノ見透ニ付テハ貴電第一四二二號ニ依ルモ見込薄ナルノミナラス陸海軍側モ當初ノ意向ト異リ中央、上海、滿洲共ニ難色アリ且猶太人ノ利用ニ付消極的意見强化セル關係モアリ我方トシテ必スシモ積極的ニ本件ヲ取上クル意向ニハ非サル處田村ヨリ「ガ」ニ對シ一應回答スル要アルヘキニ付近ク全然同人ヨリトシテ當局ハ特ニ猶太人ヲ必要トスルモノニ非サルモ避難民ノ現情ニ顧ミ一定ノ條件ヲ以テ之カ收容ニ付當該現地官憲ニ對シ斡旋方考慮シ得ヘキ意向ナリシカ收容豫想地タル上海ノ猶太人側ニ難色モアリ困難ヲ生シ居レリ尚當局ト折衝ヲ繼續スル場合ノ參考迄貴方ニ於テ避難民ノ收容、安住其他建設的ナル目的ノ爲各人當リ相當ノ資金ヲ供與スル準備アラハ回電アリ度キ旨電報セシムルコトニ取計中ナリ
紐育へ轉電アリ度シ
上海へ轉電セリ

1271

昭和15年2月29日　在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛（電報）

サスーンの米国での言動に対するわが方反駁と上海における反響について

上　海　2月29日後発
本　省　2月29日夜着

第三八四號

往電第三六六號ニ關シ(1)

一、「サスーン」ノ米國ニ於ケル排日言動ニ對シテハ此ノ機會ヲ利用シ徹底的ニ反撃ヲ加ヘ置クコト猶太人對策上ヨリモ效果アルヘシトノ考慮ヨリ當地邦字紙ヲ通シ「プレスキヤンペイン」ヲ行フト同時ニ二十六日外字新聞記者會見ノ際鶴見ヨリ「サ」ノ對日誹謗談話ハ日本軍ニ對スル侮辱ナルノミナラス日本國民全般ニ對スル侮辱ナリ日本側カ猶太避難民ノ幸福ヲ計ル爲多大ノ犧牲ヲ忍ヒツツ各種ノ便宜ヲ計リツツアルニモ拘ラス之ヲ「アプリシエイト」セス却テ日本ニ關スル極メテ皮相且非友誼的見解ヲ發表セルハ洵ニ遺憾ナリトノ趣旨ヲ說明セル趣ナル處各英字紙ハ何レモ詳細之ヲ報道シ一般猶太人ニ衝撃ヲ與ヘタリ

二、二十七日「アブラハム」及猶太人收容所指導者「ワインベルガー」ハ犬塚ニ對シ左記趣旨ノ內話ヲナセル趣ナルガ「サ」ヲ除ク猶太財閥カ漸次英國ノ手ヲ離レ日本側ニ靡クノ端緒トモナラハ對租界工作上ニモ極メテ好都合ト思考セラル

「サスーン」ハ猶太敎的觀念薄ク基督敎ノ色彩濃厚ニシテ「サ」財閥ノ大番頭ニハ英國人ヲ据ヘ英國政府ノ手先トナリ政治的方面ニ深入リシ且多額ノ重慶側公債ヲ所有シ居リ純粹ノ猶太人的經濟活動ヨリ離レツツアリ當地猶太人間ニモ兎角ノ評判アリ「サ」ヲ指導者ニ戴クコトニ反對スルノ空氣アリシカ今回ノ事件ヲ契機トシテ「サ」トハ益々緣カ薄クナルヘシ又「サ」カ米國ニ於テ發表セル談話ハ代表的意見ニアラス當地一般猶太人ハ日本側ノ好意ヲ衷心感謝シ居リ之ヲ日本側ニ傳ヘ日本新聞記者トノ會見ヲ斡旋アリタク又近ク行ハルヘキ工部局市參事會員ノ選擧ニ當リテハ英佛ノ利益トナリ日本側ノ不利トナルカ如キ態度ニ出ツルコトナシ云々（最後ノ點ハ犬塚ヨリ夫レトナク探リタルニ依ル）

三、依テ當方斡旋ノ結果二十八日午後猶太人側代表ト邦字紙記者トノ會見ヲ行ヒタル處先方ヨリ猶太人一同ハ日本側ノ好意ニ對シ深ク感謝シ居ル次第ヲ詳說シ且避難民ハ金錢物品ヲ持チ來リ居リ上海ノ經濟的及文化的ノ復興ニモ

貢獻シ居ル旨述ヘ次テ簡單ナル質問應答ヲ行ヒタルカ二十九日ノ邦字及英字紙ハ一齊ニ之ヲ掲載セリ委細郵報

北京、天津、南京、廣東、香港へ轉電セリ

1272

昭和15年3月12日　有田外務大臣より在上海三浦總領事宛（電報）

上海行きユダヤ人避難民への本邦通過査証発給に関する意見回示方訓令

別　電　昭和十五年三月十二日発有田外務大臣より在上海三浦總領事宛第二二九號

右発給に関する在ウィーン總領事館の方針

本　省　3月12日後10時発

第二二八號

別電第二二九號後段ノ方針ニ關シ貴見何分ノ儀至急回電アリ度

（別　電）

本　省　3月12日後10時30分発

第二二九號

維納發本大臣宛電報第四三號

當地猶太人協會ヨリ滿洲國關東州經由近ク上海ニ赴カントスル避難民（共同租界當局ノ入國許可證ヲ有ス）約百五十名ノ內不取敢九十名程本邦通過査證ヲ得度キ旨申出アリタル處右ニ對シテハ之ヲ與フル方針ナリ尚共同租界當局ノ入國許可證ヲ所持セストモ米貨四百弗ヲ上海ニ於テ當人ニ交付スヘキ旨確實ナル銀行若ハ著名旅行會社等ニテ證明ヲ爲ス場合モ同樣通過査證ヲ與フル方針ナリ右爲念

1273

昭和15年3月14日　在上海三浦總領事より有田外務大臣宛（電報）

上海行きユダヤ人避難民への本邦通過査証発給に関する意見回示について

上　海　3月14日後発

本　省　3月14日夜着

第五〇九號

貴電第二二八號ニ關シ（上海行猶太避難民ニ關スル件）

四百弗所持ノ確證ヲ得ルコトハ困難ニシテ濫用ノ惧充分アルコト竝ニ一般ニ多數來入スルコトハ其ノ一部カ我方占領

區域ニ進入スル等我方ニ取リテモ迷惑ナリト存セラルルニ付成ルヘク「ジスカレジ」セラレタシ尚御如才ナキコト乍（欄外記入）ラ一般的ニ滿洲國ハ此ノ種避難民ノ通過ヲ好マサルヤニ聞キ及ヒ居ルニ付テハ關東州通過査證發給ニ付テモ此ノ邊考慮ニ入ルルノ要アルヘシト思考セラル（本件許可制實施以來滿洲國、西比利亞經由渡來セル者殆トナシ）

（欄外記入）
本電亞一ヨリ維納宛轉電ト同時ニ査證セザル様申送レリ　十六日

1274

昭和15年5月10日　在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民に対する関東州および満州国通過査証の発給につき照会

上　海　5月10日後発
本　省　5月10日夜着
第八九七號
本官發獨宛電報

第一號
七日貴地猶太人協會ヨリ當地猶太避難民委員會ヘノ電報ニ依レハ在獨、墺、日、滿官憲ハ從來當地共同租界竝ニ佛側發給ニ係ル猶太避難民來入許可證所有者ニ對シテハ關東州及滿洲國通過査證ヲ發給シ居ラサリシ處今般此ノ種許可證所有者ニ對シテモ總テ一括査證發給ヲ始メタル趣ナル處右事情至急御回電請フ
尚本件ニ對スル當方意見ハ大臣宛往電第五〇九號ノ通リナルモ其ノ後當方許可證發給數ハ極度ニ限定（尤モ過般市參事會員選擧ニ於テ猶太有權者獲得策トシテ相當數ノ許可證ヲ發給セリ）シ居ルモ工部局側ハ許可證亂發ノ傾向アリ一方我方占領區域外ニ於ケル生活費高竝ニ家屋拂底ノ爲工部局ノ許可證ヲ所持シ來入セル避難民竝ニ四百弗所持ノ者モ大部分我方占領區域ニ潛入シ居ル實情ニシテ右不正入域者ノ追放モ意ノ儘ニ行ハレサル實情ニシテ我方ノ避難民來入阻止策モ有名無實化サレントシ居ル實情ナルニ鑑ミ出來得レハ在歐日滿側出先ニ於テ我方許可以外ノ避難民ニ對シ通過査證ヲ拒絶セラルルコト我方取締上甚タ好都合ト思考ス
大臣、維納、滿ヘ轉電セリ

1275

昭和15年5月15日　在独国来栖大使より
有田外務大臣宛（電報）

ユダヤ人避難民に対する関東州および満州国通過査証の発給につき請訓

ベルリン　5月15日後発
本　省　5月16日前着

第四七五號

上海發本使宛電報第一號ニ關シ

當館ニ於テハ客年維納宛貴電第四〇號及同年貴信亞一機密合第一三二五號ノ趣旨ニ準據シ上海總領事館ノミナラス共同租界及佛租界兩當局ノ發給シタル上海渡航許可證ヲ所持スル猶太人ニ對シテハ關東州通過ノ査證ヲ與ヘ居リ（本年一月ヨリ五月十四日迄計九十四件）今般改メテ兩租界當局ノ許可證ニ對シ査證ヲ開始シタル次第ニハアラサル處冒頭上海總領事電報ノ次第モアリ本件今後ノ處置振ニ關シ至急何分ノ儀御訓電アリタシ

漢堡、「プラハ」、維納ヘ轉電セリ

滿、上海ヘ轉電アリタシ

1276

昭和15年5月28日　有田外務大臣より
在独国来栖大使宛（電報）

ユダヤ人避難民に対する関東州および満州国通過査証の発給につき回訓

本　省　5月28日後10時0分発

第三〇六號

貴電第四七五號ニ關シ

御來示ノ次第御尤ナルモ共同租界及佛租界側發給ニ係ル許可證ヲ得テ上海ニ來入スル猶太人ニシテ日本軍占領地區内ニ潛入シ來ル者不尠ル趣ナルニ付テハ今後ハ上海總領事館ノ許可證ヲ有スル者以外ハ關東州及滿洲國ノ通過査照ヲ發給セラレサルコトト致度尚猶太人ニシテ浦鹽ヨリ敦賀經由上海ニ來航スル者モアルヘキニ付右ニ付テモ同樣措置方御取計ヒアリ度

滿、上海ヘ轉電セリ

漢堡、維納、プラーハヘ轉電アリ度

1277

昭和15年5月31日　有田外務大臣より
在ソ連邦東郷大使宛（電報）

ユダヤ人避難民に対する本邦および満州国通過査証の発給条件につき訓令

本　省　5月31日後7時発

第四四五號

歐洲戰爭ノ難ヲ避ケンカ爲上海ニ赴カントスル猶太人カ貴館ニ關東州及滿洲國ノ通過査證或ハ敦賀經由ノ査證ヲ求メ來ル場合ニハ上海共同租界又ハ佛租界發給ノ許可證ヲ有スル者ト雖在上海帝國總領事館ノ許可證ヲ有スル者ニ非レハ前記通過査證ヲ附與セラレサルコトト致度

浦鹽へ轉電セリ

本大臣ノ訓令トシテ「ラトヴィヤ」、瑞典、羅馬尼、芬蘭へ轉電アリタシ

1278

昭和15年7月13日　在北京土田(豊)総領事より
有田外務大臣宛(電報)

リトアニアおよびポーランドの旅券所持者に対する本邦入国・通過査証の取扱いにつき請訓

北　京　7月13日後発
本　省　7月13日後着

第九七號

現ニ獨逸及蘇聯ノ軍事占領下ニアル諸國國民ノ本邦入國及通過査證扱振ニ關シテハ本省ニ於テ種々御考究ノコトト存スル處右諸國民中從來査證相互廢止國タリシ「リスアニア」國旅券ニ對シテハ相互廢止協定ハ當然廢棄セラルヘキ時機ニアルモノト思考セラルルモ將來蘇聯人ニ對スル査證ト同樣取扱フヘキヤ又波蘭國籍ノ者ニ對スル査證扱振ニ關シ現ニ上述國旅券所持者ヨリ願出モアリ併テ至急御回電ヲ請フ

1279

昭和15年7月17日　有田外務大臣より
在北京土田総領事宛(電報)

リトアニアおよびポーランドの旅券所持者に対する本邦入国・通過査証の取扱いにつき回訓

本　省　7月17日後3時40分発

第九七號

貴電第九七號ニ關シ

㈠現ニ獨逸及蘇聯ノ軍事占領下ニ在ル諸國國民ノ本邦渡來ニ對シテハ從來通一般外國人ニ對スルト同樣現下ノ時局

ニ顧ミ本人ノ身許、思想、渡來目的等ヲ取調ヘタル上支障ナシト認ムル者ニ對シテハ入國、通過ノ査證ヲ與ヘラレ差支ナシ但シ避難ノ爲渡來スル者ニ對シテハ行先國ノ入國手續完了ノ上單ニ本邦ヲ通過スルニ過キサル者ノ外ハ査證ヲ與ヘサルコトニ御取扱アリタシ

(二)「リスアニア」及波蘭兩國人ニ對シテモ目下ノ處右ニ依リ御取扱アリタシ

右貴電ト共ニ「ハルビン」、新京、滿洲里及在支各總領事(厚和、張家口、海口ヲ除ク)及香港へ轉電セリ

1280

昭和15年8月16日　松岡外務大臣より在カウナス杉原(千畝)領事代理宛(電報)

避難民に対する本邦通過査証の発給条件厳守方訓令

本　省　8月16日後8時0分発

第二二號

最近貴館査證ノ本邦經由米加行「リスアニア」人中携帯金僅少ノ爲又ハ行先國ノ入國手續未濟ノ爲本邦上陸ヲ許可スルヲ得ス之カ處置方ニ困リ居ル事例アルニ付此際避難民ト看做サレ得ヘキ者ニ對シテハ行先國ノ入國手續ヲ完了シ居リ且旅費及本邦滯在費等ノ相當ノ携帯金ヲ有スルニアラザレハ通過査證ヲ與ヘサル樣御取計アリタシ

1281

昭和15年[9]月1日　在カウナス杉原領事代理より松岡外務大臣宛(電報)

ウラジオストクでの乗船以前に本邦通過査証の発給条件を満たさない避難民に対しては同地で乗船を拒絶ありたき旨請訓

カウナス　9月1日後発
本　省　9月2日前着

第六七號

貴電二二號ニ關シ(避難民ノ取扱方ニ關スル件)

當國避難民中ニハ近クニ中南米代表ナキト當館ノ引揚切迫ヲ見越シ先ツ以テ現在唯一ノ通過國タル我査證方願出ル者アリ而モ我査證ハ蘇側ニ於テモ米國方面出國手續上ノ絕對條件トナシ居ル等事情斟酌ニ値スルモノアルニ鑑ミ確實ナル紹介アル者ニ限リ浦潮乘船迄ニ行先國上陸許可取付方本邦以遠ノ乘船券豫約方竝ニ携帯金ニ付テハ極端ナル爲替管

理ノ爲在外資金ヲ本邦ヘ轉送方手配スル場合敦賀ニ豫報方手配方夫々必要ノ次第ヲ承知スル旨申告セシメタル上右實行ヲ條件トシテ査證シ居ルニ付右手續未了ノモノニ對シテハ至急浦潮ニ於テ乘船拒絶方御取計アリタシ

編　注　本電報の発電日は八月一日となっているが、誤りのため九月一日に改めた。

1282

昭和15年9月3日　松岡外務大臣より
在カウナス杉原領事代理宛（電報）

ウラジオストクでの乘船拒絶は事実上不可能であり発給条件を満たさない避難民には本邦通過査証を発給せざるよう対処方訓令

本　省　9月3日後5時50分発

第二四號

貴電第六七號ニ關シ

船會社カ帝國領事ノ通過査證ヲ有スル者ノ乘船ヲ浦鹽ニ於テ蘇官憲ノ命令ニ反シテ拒絶スルコトハ事實不可能ナルノミナラス右ハ我方査證ノ信用ヲ害スルモノナリ現ニ貴電ノ如キ取扱ヲ爲シタル避難民ノ後始末ニ窮シ居ル實狀ナルニ付以後ハ往電第二二號ノ通嚴重御取扱アリタシ

1283

昭和15年9月30日　松岡外務大臣より
在ソ連邦東郷大使宛（電報）

欧州避難民に対する査証の取扱いにつき訓令

本　省　9月30日後5時40分発

第八六八號

（欄外記入一）
最近本邦通過ノ西比利亞經由米大陸方面行歐洲避難民中行先國ノ入國手續未了又ハ携帶金僅少ノ爲本邦上陸ヲ拒絶セラルル者少カラス右等ノ者ハ事實上送還不能ノ爲處置ニ困ル次第ニ付今後本邦渡來ノ避難民ト認メラルヘキ者ハ猶太人タルト否トヲ問ハス㈠入國査證ハ附與セザル樣又㈡通過者ハ必ス行先國ノ入國手續ヲ完了シ居リ且目的地ニ至ル間ノ所要船車賃ノ外本邦滯在日數ニ應シ一人一日當リ最低二十五圓見當ノ宿泊料金ヲ本邦到着ノ際携帶ヲ要スルニ付右御含ノ上通過査證取扱方可然御取計アリタシ

（欄外記入二）
（欄外記入三）
瑞典、瑞西ヘ轉電アリタシ
瑞西ヨリ在歐各館（瑞典ヲ除ク領事館及「ダフリン」ヲ含

ム）ニ轉電アリタシ

（欄外記入一）

本件ニ付テハ屢次訓令シアルモ唯入國提示金額ノ標準一定セサリシ爲査證上不便多カルヘキヲ考慮シ且歐洲避難民ノ增加ニ伴ヒ提示金不足ニ基ク問題モ發生シツツアルニ顧ミ內務省側ニ交涉ノ結果今回決定セルモノナリ

（欄外記入二）

携帶金ノ標準金額ニ付テハ內務省外事課ト協議スミ

（欄外記入三）

最近更ニ內務省ヨリ莫斯科「ストックホルム」及「オスロ」ノ通過査證ヲ有スル米國方面行避難民ニシテ携帶金僅少ノ爲敦賀ニ上陸ヲ拒絕セラレタル者約十人アリタル旨通報アリタリ

〰〰〰

ラルル者ニ對シテハ猶太人ナルト否トヲ問ハス屢次申進置ノ通㈠入國査證若ハ入國渡航證明書ハ之ヲ與ヘサルコト又㈡通過者ハ必ス行先國ノ入國手續ヲ現ニ完了シ居ル者ニ非サレハ通過査證若ハ通過渡航證明書ヲ與ヘサルコトニ取扱フノ外㈢査證若ハ渡航證明書ヲ與フルニ當リテハ前記標準ノ携帯金ヲ有スルヤ否ヤヲ特ニ注意ノ上御取扱相成度尚從來ノ無國籍人ニ對スル提示金ノ内規ハ當分ノ間其ノ儘存續セラルヘキモ無國籍人ニシテ且避難民ナル者ニ對シテハ本件避難民携帯金ノ標準額ニ依リ取扱ハルル様致度此段申進ス

本信送付先　在外各公館長

編注　本公信は一部公館を除く一四二の在外公館長へ発信された。

1285

昭和15年10月29日　松岡外務大臣より在独国来栖大使、在ソ連邦建川大使他宛

バルト三国人およびポーランド人など正式旅券を所持しない者に対する渡航証明書の発給につき訓令

米三機密合第一三二五號

昭和拾五年拾月廿九日

外務大臣　松岡　洋右

在外各公館長殿

「バルト」三國人、「ポーランド」人等正式旅券ヲ有セサル者ニ渡航證明書發給取扱方ニ關スル件

今次歐洲戰爭ノ結果國外在留ノ「エストニア」「ラトヴィア」及「リスアニア」ノ三國人又ハ「ポーランド」國人等ノ如キ他國ニ併合セラレタル國ノ國民ニシテ蘇聯邦又ハ獨逸國等ノ併合國ニ轉籍セス又他ノ國籍ヲモ取得セサル爲正式旅券ヲ所持セサル者又ハ正式旅券ヲ入手スルコトノ極メテ困難ナル實情アル者ニ對スル本邦渡來ノ際與フル査證ノ形式ニ付テハ暫定措置トシテ舊露國人又ハ無國籍人ニ對シ發給スヘキ渡航證明書(外國人出入在留事務參考書第一〇四頁參照)ヲ發給スルコトニ御取扱相成度而シテ是等ノ者ニ對スル右渡航證明書ノ發給方針ニ付テハ十月十日附米三機密合第一二七九號訓令「外國避難民ニ對スル査證取扱方ニ關スル件」ニ依リ御取扱相成右訓令ニ依リ難キ特殊ノ場

合ニ就テハ事前ニ當方ヘ請訓相成様致度此段申進ス

本信送付先　在外各公館長

編　注　本公信は一部公館を除く一四四の在外公館長へ発信された。

1286

昭和15年12月20日　松岡外務大臣より在独国来栖大使、在ソ連邦建川大使宛（電報）

中米諸国に赴く欧州避難民に対する査証取扱いにつき訓令

本　省　12月20日後8時20分発

合第二六六九號

本大臣發在蘇大使宛電報第八六八號ニ關シ

中米諸國ハ米洲諸國以外ヨリノ渡來者殊ニ避難民ノ入國許可制ヲ嚴重施行中ニシテ現ニ最近巴奈馬ニ於テ郵船ニテ輸送セル同國入國及巴奈馬中繼「コスタリカ」蘭領「クラサオ」「ホンジユラス」「ドミニカ」「ハイチ」等ノ中米諸國行猶太人其他ノ歐洲避難民二十數名ニ對シ何レモ行先國竝ニ巴奈馬國領事ノ査證アルニ拘ラス關係國政府ノ事前許可ヲ受ケ居ラサル理由ニ因リ下船ヲ拒絶セラレタル事件モアルニ付以後前記其他ノ中米諸國行猶太人其他ノ避難民ニ付テハ曩ニ訓令ノ携帯金其他ノ條件ヲ備フルノ外㈠凡テ行先國領事ノ入國査證ト共ニ豫メ行先國政府ノ入國許可ヲ受ケタル確證ヲ有スル者㈡又是等避難民ニシテ巴奈馬ニ下船スル者ニ付テハ同國領事ノ通過査證ト共ニ豫メ巴奈馬國政府ノ下船許可ヲ受ケタル確證ヲ有スル者ニ非サレハ本邦通過査證ヲ與ヘサル様御取扱アリタシ

獨逸ヨリ瑞西、瑞典、芬蘭、洪牙利、プラーグ、維納、漢堡、ルーマニア、ブルガリアニ轉電シ安土府ヘ轉報アリタシ

瑞西ヨリ英、佛、土耳其、葡萄牙、西班牙、バルセロナ、伊太利ニ轉電アリタシ

英ヨリ「リヴァプール」「ダブリン」ヘ轉電アリタシ

佛ヨリ馬耳塞ヘ轉電アリタシ

1287

昭和16年2月3日　在ソ連邦建川大使より松岡外務大臣宛（電報）

ポーランド避難民への満州国による特例的な通

過査証発給措置につき同国の同意取付け方要請

モスクワ　2月3日後発
本　省　2月4日前着

第一四九號

一日領事部長ハ齋藤ニ對シ目下蘇領内ニ約八百名ノ波蘭避難民アリ「パレスタイン」又ハ南米ニ向フヘク日本側(「カウナス」發給)及蘇側ノ査證ヲ有スルモ浦潮經由ノミニテハ一時ニ他ニ移住困難ナレハ其ノ一部ヲ滿洲里經由トシタキ處「チタ」ニテ滿側ノ査證取付モ容易ナラス仍テ滿洲里ニテ便宜ノ措置ヲ構シ得サルヤト申出テタルニ付滿側ニ於テハ此ノ種取扱ニ同意セサルモノト承知スルモ強ヒテ御希望トアレハ照會スヘシト應酬シ置キタル趣ナリ本件ハ一般的措置トシテハ素ヨリ審議ノ限リニアラサルモ客年末就任以來査證事務ニ相當好意ヲ示シ居ル領事部長ノ顔ヲ立ツル意味ニ於テ特ニ尊敬的ニ例外ノ措置ヲ認メ置クコトハ今後ノ爲ニモ無駄ニアラサルヘシト思考セラルルニ付適當ノ條件(例ヘハ客年貴電合第二六六九號及貴電第一六號行先地ノ事前承認取付、行先地迄ノ乘船券及見セ金二〇〇弗程度ノ提示)ニテ約四百名ニ對シ滿側査證ヲ滿洲里ニテ發給シ得ル樣滿側ノ同意ヲ取付ケラレ結果回電アリタシ

1288

昭和16年2月4日　松岡外務大臣より
在プラハ杉原総領事代理宛(電報)

在カウナス領事館においてユダヤ人避難民に発給した査証数につき回示方訓令

本　省　2月4日後11時0分発

第一〇號

貴官ガ在「カウナス」領事代理當時査證ヲ與ヘタル猶太避難民ノ數至急回電アリタシ尚右氏名、行先、査證月日郵報アリタシ

1289

昭和16年2月5日　在プラハ杉原総領事代理より
松岡外務大臣宛(電報)

在カウナス領事館においてユダヤ人避難民に発給した査証数につき回答

プラハ　2月5日後発
本　省　2月6日前着

第一二號

貴電第一〇號ニ關シ（猶太避難民査證ノ件）
「リスアニア」人竝ニ舊波蘭人ニ與ヘタル通過査證二、一三二内猶太系約一、五〇〇ト推定ス

1290

昭和16年3月4日　在満州国梅津大使より
松岡外務大臣宛（電報）

ポーランド避難民への通過査証発給措置に関する満州国側意向について

新　京　3月4日後発
本　省　3月4日夜着

第一〇二號
貴電第九三號（蘇領内波蘭避難民ニ對スル滿洲査證ノ件）及蘇發本使宛電報第一一號ニ關シ
滿側ノ意嚮左ノ通リ
一、在「チタ」滿洲國領事館ニ於テ通過査證ヲ取得セシム右ハ便宜代表者ヲ銓衡出頭セシムルカ又ハ旅券ヲ前以テ同館ニ送付セシムルモ差支ナシ
二、通過査證有效期間ハ入滿後五日間トス
三、入出滿ニ當リテハ五十名内外ノ團體行動ヲ執ラシメ乘換以外途中下車及自由行動ヲ認メス尚各團體毎ニ氏名、年齢、性別ヲ明記セル名簿ヲ豫メ哈爾賓特派員ニ送付セシム
四、現示金ハ日本側ニ於テ要求セサル場合ハ滿側モ免除ス但シ旅券、宿泊料、食費等所要額ハ携行セシム（貰カ）
蘇ヘ轉電セリ

1291

昭和16年3月5日　在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛（電報）

満州国通過査証を求めるポーランド避難民が行先国の入国手続き未済の場合の措置振り等につき照会

モスクワ　3月5日後発
本　省　3月6日前着

第二六八號
在滿大使發貴大臣宛電報第一〇二號ニ關シ
波蘭避難民ノ滿洲國通過ニ付テハ往電第一四九號及本使發在滿大使宛電報第一一號（大臣宛轉電第二二三號）ノ通リ約八百名ニシテ之等ハ行先國中南米向ノモノハ曩ニ訓電ノ通

リ出先當該國領事ノ査證ヲ有スルモ同政府ノ許可ヲ必要トスル次第ニ付之等ノ者カ入國シ得サル場合ハ本邦側ノ迷惑トナルヘキカ如キモ此ノ點ハ御研究濟ナルヤ尚人員ニ付テモ大臣發在滿大使宛電報第九三號ノ通リ總數ヲ百名ト限定セラルルモノナリヤ至急御回示アリタシ

滿ヘ轉電アリタシ

1292

昭和16年3月9日　松岡外務大臣より在ソ連邦建川大使宛（電報）

満州国通過査証を求めるポーランド避難民に対し本邦通過査証の再検閲方訓令

本　省　3月9日後5時10分発

第二四九號（祕）

貴電第二六八號ニ關シ

之等避難民カ我方ノ通過査證ヲ有スト雖モ右附與後中米諸國及「パレスタイン」行ノ者ニ付テハ行先國領事ノ入國査證ノ外更ニ同政府ノ事前許可ヲ要スルコトトナリタルハ御承知ノ通ナルニ依リ我方トシテハ右ニ基キ新ニ行先國ノ入國手續ヲ夫々完了ノ者ニ限リ他ノ要件ヲモ精査ノ上更メテ通過ヲ認ムヘキ方針ナルニ付此ノ旨蘇側ヘ御申入相成ト共ニ貴館ニ於テ一應再檢閲ノ上入國上欠點アル者ニ對シテハ新ニ條件ヲ具備セサル限リ通過査證ヲ取消ス樣御取計アリ度尚本邦ニテハ最近多數ノ避難民停滯シ益々增加ノ傾向アルニ鑑ミ目下之カ制限方考究中ナル次第ニテモアリ滿洲國通過者ニ付テハ高々百名位ト致タシ

滿ヘ轉電セリ

1293

昭和16年3月14日　在ソ連邦建川大使より近衛臨時外務大臣事務管理宛（電報）

ポーランド避難民に対する本邦通過査証の再検閲は実行困難について

モスクワ　3月14日後発

本　省　3月15日後着

第三〇〇號

貴電第二四九號ニ關シ（波蘭避難民ニ關スル件）

避難猶太人ノ滿洲國通過ハ既ニ御承知ノ通リ全部カ舊在「カウナス」本邦領事ノ査證ヲ有スルモノナルニ依リ蘇側ハ浦潮經由ナレハ何等交涉ノ要ナキモ出來得ル限リ早目ニ出國

セシメ度ク浦潮經由ニテハ便船其ノ他輸送上ノ不便ニ依リ滿洲國通過ヲ申入レ來タレル次第ナルト避難民ハ屢次報告ノ通リ行先國政府ノ許可ヲ有セス貴電ニ依ル本邦通過ヲ認メ得サルニ付從テ在滿大使發大臣宛電報第一〇二號ノ條件ヲ回答スルモ何等意味ヲ爲サス況ヤ百名ニ限定スルニ於テヲヤ寧ロ貴電後段ヲ理由トシテ全面的ニ拒否スル方可ナリト思考ス右ニ取計可然キヤ尚舊在「カウナス」本邦領事ノ査證ヲ有スルモノハ當館ニ寄リ着カス取消ノ方法ナク又蘇側ハ中南米政府ヨリハ本件ニ關シ何等ノ通告ヲ受ケ居ラサルニ依リ出先官憲ノ査證ハ當然有效ナリト主張シ居レリ滿ヘ轉電アリ度シ

1294

昭和16年3月17日　近衛臨時外務大臣事務管理より在ソ連邦建川大使宛（電報）

欧州避難民に対する本邦通過査証の発給手続きにつき訓令

本　省　3月17日後8時発

第二八三號（祕）

猶太人其他ノ歐洲避難民ニシテ入國許可手續ノ不備、行先國査證有效期間ノ經過及船待等ノ爲現在本邦ニ停滯セル者千數百名ニ達シ尚增加ノ傾向アルニ鑑ミ右渡來者數ヲ調節スルノ必要ヲ認メ當分ノ間之カ査證取扱手續ヲ左ノ通定メタルニ付本電着ト同時ニ實施アリタシ

一、歐洲避難民ニ對シ通過査證ヲ附與スル公館ヲ貴館ニ限定ス

二、貴館ニ於テハ避難民ノ通過査證申請者中所定ノ條件ヲ具備スル者ノ數ヲ半月毎ニ行先國別トシ本省ニ電報スルコト、但シ第二回目以後ハ新規申請者ノ數ノミ電報スルコト又既ニ電報濟ノ內申請ヲ取消シタル者アルトキハ其數ヲモ併セテ電報ノコト

三、本省ニ於テハ各般ノ事情ヲ考量ノ上査證ヲ與ヘ差支ナキ者ノ數ヲ隨時貴館ニ訓電スヘキニ付其數ノ範圍內ニ於テ最好條件ヲ具備スル者ヨリ順次査證ヲ與ヘ右以外ノ者ニ對シテハ査證セザルコト

1295

昭和16年3月19日　近衛臨時外務大臣事務管理より在ソ連邦建川大使宛（電報）

前年十二月二十日以前に欧州避難民へ発給さ

れた本邦通過査証の再検閲につき訓令

本　省　3月19日後8時発

第二八七號（祕）

貴電第三〇〇號ニ關シ

前電ノ通我方ノ通過査證附與後中米諸國及「パレスタイン」ノ入國手續ニ變更ヲ生セシノミナラス其他ノ行先國ニ付テモ査證ノ有效期間經過ノ爲更ニ之カ延長手續ヲ必要トスル者モ多數アルニ付往電合第二六六九號ノ發電日附タル客年十二月二十日以前ニ於テ本邦在外官憲カ歐洲避難民ニ與ヘタル通過査證ハ全部貴館又ハ在浦潮總領事館ニ於テ再檢閲ノ上行先國ノ入國手續ノ完全ナルコトノ確證ヲ提出セシメ右完全ナルモノニ限リ檢印ヲ施シ（檢印ノ形式ハ旅券ノ末尾餘白ニ「所定ノ條件ヲ具備スルモノト認ム」ト記載シ其左側ニ年月日竝ニ公館長ノ官氏名ヲ附記シ官印ヲ押捺ス）右檢印ナキ者ハ本邦船ニ乘船セシメス假令乘船ストスルモ上陸ヲ許可セサルコトトセリ就テハ

一、右趣旨蘇側ヘ通告セラルルト共ニ蘇官憲ガ右檢印ナキ者ノ乘船ヲ强制スルガ如キコトナキ樣御申入相成度シ尤モ本件ハ一概ニ右避難民ノ通過ヲ阻止セントスルモノニ非ス前出所定ノ條件ヲ具備スル者ノ通過ハ從來通ナルニ付此點蘇側ヲシテ誤解セシメサル樣御說明相成度シ

二、同時ニ冒頭ノ趣旨ヲ貴館ニ於テ關係方面ヲ通シテ避難民ニ周知セシメ該當者ヲシテ貴館ノ檢印ナクシテ浦潮ニ赴クモ徒勞ニ歸スル場合アルコトヲ豫メ警告セシメ置ク樣可然御取計相成度

三、百名程度ノ滿洲國通過ヲ認メントスルハ多少ナリトモ先方ノ顏ヲ立テントスル趣旨ナリシ處貴見ニシテ其要ナシトセラルルニ於テハ之ヲ撤回ス

本電趣旨浦鹽ヘ電報スミ

1296

昭和16年3月21日　在ソ連邦建川大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛（電報）

欧州避難民への本邦通過査証発給に関する新規措置は実行不可能につき従来通りの取扱いとしたき旨請訓

モスクワ　3月21日後発
本　省　3月22日後着

第三三四號

貴電第二八三號ニ關シ（歐洲避難民ノ査證取扱方ニ關スル件）

貴電㈠ハ歐洲全體ヲ指スモノナルニ於テハ「バルト」三國及其ノ他ノ占領地域外ノ居住者ニ對シ査證調査ヲ行フコトハ事實上不可能ナリ貴電㈡ニ付テハ現在申請者約三百名アル處是等トノ書面往復ニハ（郵送途中旅券ノ紛失、詐リノ申告其ノ他彼等ニトリテハ死活ノ問題ナルヲ以テ極メテ狡猾ナル手段ヲ弄ス）手ヲ燒キ居ル次第ナリ又彼等ヲ當館ニ出頭セシムルコトハ國內手續上殆ト不可能ナルヲ以テ所定條件具備ノ有無ヲ的確ニ調査スルコト困難ナリ一方行先國竝ニ蘇聯出國査證ヲ受付ケ旅行ノ途次當館ニ出頭シ査證ヲ願出ツル者ノ每日約十名ニ達スルモ當館ニ於テ愼重取調ノ上右ノ內米國移民許可證等確實ナル査證ヲ有シ且充分ナル旅費ヲ所持スル者ニ限リ（全數ノ約十分ノ一）査證ヲ與ヘ居ル次第ニテ御來示ノ通リ取計フニ於テハ彼等ヲモ當地ニ半月以上滯在セシムルコトトナリ右ハ蘇側官憲ニ於テ到底許可セサルヘキニ付結局無査證ノ儘浦潮ニ赴クコトトナルヘシ

何レニスルモ豫メ彼等ノ具備スル條件ヲ正確ニ取調フルコト困難ナル處貴電ノ趣旨ハ舊「カウナス」領事ノ査證ヲ有スル者ノ處置ニ窮スル結果ト思料スルモ是等ハ既ニ電稟セシ通リ當館ニ寄リ付カス之レ以外從來當館ニ於ケル査證發給ハ前述ノ通リ絕對本邦ニ滯留スル惧ナキ者ニ限リ居ルニ付御訓令ノ次第ハアルモ本件ハ從來通リト致度ク尙今後發給件數ハ月三、四十名內外ト思考セラル

浦潮へ轉電セリ

1297

昭和16年3月29日　近衛臨時外務大臣事務管理より在ソ連邦建川大使宛（電報）

本邦に滯留する欧州避難民の大部分が出国するまでは新規措置による本邦通過査証発給を実行方訓令

本　省　3月29日後8時発

第三一八號

貴電第三三四號ニ關シ

實行上種々困難アルハ推察ニ難カラサルモ他方目下大量ノ避難民本邦ニ滯留シ居リ之等ハ前電通リ直クニハ行先國ニ入國シ得サル事情アル爲避難民救濟團体ヲシテ極力出國方

手配シ居ルニモ拘ラス效果捗々シカラサルニ付（其ノ上在歐各地ニテ既ニ我方ノ査證取得濟ミノ者約二千五百名待機中ト推定セラル）本省トシテハ之等滯留者ヲ大部分出國セシムル迄ハ事實上新ニ査證セシメサル方針ヲ確立シ唯申譯ニ出國者數ト睨ミ合セ少數ニ限リ（當分月十名以内、御含迄）許可スル意嚮ノ下ニ前電通訓令シタル次第ニテ貴電末段ノ如ク本省ト連絡ナク査證セラルルハ右ノ統制ヲ困難ナラシムルニ付事態正常トナリ追電致ス迄前電通實施相成度尚無査證ノ儘浦鹽ニ來ルモノアリトスルモ絶對乘船セシメサルコトトセリ

浦鹽へ轉電セリ

1298

昭和16年3月30日　在ウラジオストク根井（三郎）総領事代理より
近衛臨時外務大臣事務管理宛（電報）

欧州避難民が所持する本邦通過査証の発給および検印措置につき再考方意見具申

ウラジオストク　3月30日前発
本　省　3月30日後着
第一〇九號

目下當地滯在中ノ猶太避難民ハ約百名ナルカ蘇側當局ニテハ避難民ノ出發ヲ制限セル模様ナルヲ以テ今後ハ左程多數ニ上ラサルモノト豫想セラルル之等避難民ハ一旦當地ニ到着セル上ハ事實上再ヒ引返スヲ得サル實情ニアル爲連日當館ニ出頭シ其ノ窮狀ヲ訴ヘテ通過査證ノ下附又ハ檢印ヲ求メ居ル處査證ノ新規下附ハ貴電第六九號ニ依リ悉ク之ヲ峻拒シ又檢印ハ貴電第七〇號ノ次第アリタルニ依リ現在迄之ヲ與ヘタルモノ一名モ無ク悉ク乘船ヲ拒絶セラレ居レリ

然ルニ帝國領事ノ査證ヲ有スル者ニテ遙々當地ニ辿リ着キ單ニ第三國査證カ中米行トナリ居ルトノ理由ニテ一率ニ檢印ヲ拒否スルハ帝國在外公館査證ノ威信ヨリ見ルモ面白カラス又査證ヲ有セサル者ニ對シテモ單ニ避難民取締簡易化ノ見地ヨリノミ當館ニテ査證ノ發給ヲ停止スルハ彼等カ莫斯科へ引返シ得サル事情ヨリスルモ適當ナラスト存セラルルニ付今後ハ㈠査證ノ檢印ハ愼重ヲ期シ確實ニ第三國人（ママ）ニ入國シ得ル見込アル者ニ對シテハ之ヲナス（例ヘハ蘭領「キユラソー」行ノ場合在京和蘭公使館ノ入國承認ニ基キ之ヲ行フ等）㈡新規通過査證願出ニ對シテハ確實ナル第三國入國査證所持又ハ其ノ取付確實ナル者（現ニ加奈陀ノ査證又

ハ米國ノ入國豫諾ヲ得且本邦ヨリノ乘船切符迄所持シ居リ乍ラ當地ニテ進退谷マリ居ル者アリ）ニ對シテハ諸條件ヲ嚴密調査ノ上當館ニ於テモ從來通リ通過査證ヲ與ヘ得ルコトト致スコト適當ナリト存ス右實情ヲモ御考慮ノ上何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

蘇へ轉電セリ

1299

昭和16年4月[7]日　近衛臨時外務大臣事務管理より在ウラジオストク根井総領事代理宛（電報）

欧州避難民への本邦通過査証取扱い振りにつき訓令

本　省　4月7日後9時15分発

第八五號（祕）

貴電第一〇九號及在蘇大使發本大臣宛電報第三八五號ニ關シ

㈠通過査證ハ本來行先國ノ入國手續ノ完備（入國査證又ハ入國許可）ヲ條件トスルモノナリ若シ確實ニ行先國ニ入國シ得ル確證（入國ヲ許可スル旨ノ在京行先國公館ノ書面ハ確證ト認メ差支ナシ、右カ電報ノ場合ハ本省經由ヲ要ス）ヲ有スルトキハ貴電御申越ノ通檢印ヲ與フルモ差支ナシ、又在蘇大使發本大臣宛電報第三八五號ノ五十名モ右ノ通取扱ハレタク前記ノ確證ナキ者ハ忽チ本邦側ニ滯留ノ虞アルニ付蘇側ノ希望ハアルモ檢印ヲ與ヘラレサル樣御取計相成タシ

㈡新規査證ノ分中本件暫定取扱ノ訓令前貴地ニ到着シ又ハ貴地ニ向ケ旅行中ノ者ハ考慮ニ値スル處今直チニ貴館ニ之ヲ許サハ現在「モスコー」滯在中ノ避難民モ出國期間短キ關係上同地ニ於ケル手續ヲ履行セスシテ浦潮ニ赴クコトトナルヘク斯クテハ結局本取扱訓令ノ執行ヲ困難ナラシムルニ付尚暫ク見合セラレタシ

蘇へ轉電セリ

1300

昭和16年4月18日　近衛臨時外務大臣事務管理より在ソ連邦建川大使宛（電報）

欧州避難民の本邦通過査証申請者数につき報告方訓令

本　省　4月18日後9時0分発

第四〇一號

往電第二八三號ニ關シ
第二項ノ査證申請者數未タ電報ニ接セサル處申請者アルニ
於テハ其ノ數電報アリタシ

1301
昭和16年4月19日　在ソ連邦建川大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛（電報）

欧州避難民の本邦通過査証申請を黙殺している旨報告

モスクワ　4月19日後発
本　省　4月20日前着

第四九一號
貴電第四〇一號ニ關シ（歐洲避難民ノ査證取扱方ノ件）
毎日電信又ハ書信ニテ申請シ來ルモノ七、八通アルモ之等ハ「カウナス」其ノ他舊波蘭ニ居ルモノニシテ所定ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤ出頭セサル限リ判斷シ難ク出頭セシムルニ付テハ蘇側ハ長期滯在及數度ノ出入ヲ許サス其ノ實行不可能ナルハ往電第三三四號ノ通リ新取扱決定ハ實情ニ卽セサルモノニシテ當館トシテハ中南米又ハ目的地ノ出先官憲ノ査證ヲ其ノ儘有效トシテ通過ヲ許ササル限リ寧ロ之等ノ申請ヲ默殺スルコトカ本邦及蘇側ニ對スル問題ヲ鮮クスルモノトシテ處理シ從テ電報シ得サル次第ナリ

1302
昭和16年8月20日　豊田外務大臣より
在上海堀内総領事宛（電報）

神戸滞留ユダヤ人避難民の上海送出について

本　省　8月20日後8時30分発

第八五二號（極祕、至急）
兵庫縣當局ニ於テハ神戸滯留中ノ猶太避難民二百九十餘名（中「パレスタイン」行査證所持者約百名）ヲ本二十日出帆ノ淺間丸ニテ貴地ニ送出スルコトトナリタル趣ヲ以テ昨十九日內務省ヨリ通報越セリ右ハ米國ノ資產凍結ニ依ル在米猶太本部ヨリ神戸同協會宛送金ノ途絕竝ニ郵船上海向船舶カ今月限リ航行停止トナルヲ慮リ（東亞海運船ハ航路ノ關係上外國人ヲ乘セ得サル由）急遽貴地ニ送出スルノ必要生シタルニ基ク趣ナリシヲ以テ今回ハ大局的見地ヨリ之ヲ默認シ本船ハ予定通リ出帆ノコトトナレリ右御諒知相成度

1303
昭和16年8月21日　豊田外務大臣より
在上海堀内総領事宛（電報）

神戸滞留ユダヤ人避難民すべてを上海へ送出する予定について

本　省　8月21日後6時0分発

第八五七號（極祕、至急）
往電第八五二號ニ關シ
目下滯留中ノ避難民約八百五十名（中約三百名二十日貴地へ出發）ナルカ內務省側ハ冒頭往電ノ理由ニテ其ノ全部ヲ可成速カニ貴地ニ送出シ度ク希望シ居リ既ニ二十八日頃ノ船ヲ予定シ居ル處關係方面ト協議ノ爲ノ參考上右ニ對スル貴見何分ノ儀折返シ回電アリタシ

1304
昭和16年8月22日　在上海堀内総領事より
豊田外務大臣宛（電報）

神戸滞留ユダヤ人避難民の上海送出に関しては現地当局も了解済みについて

上　海　8月22日後発
本　省　8月22日後着
第一五六三號
貴電第八五七號ニ關シ（神戸猶太避難民ノ上海送出方ノ件）本件ニ關シテハ往電第一五五八號ノ通現地當局ニ於テモ了解濟ニシテ（尤モ我方警備區域內ニ居住ハ認メラレサルヲ以テ現地當局カ許可セルヤニ誤解セシメサルコト竝兩租界側ノ許可取付必要ナル旨注意シ置カルルコトト致度シ）唯避難民來滬ノ都度其ノ船名竝人數ヲ前廣ニ通報相成度シ尙貴電第八五二號中郵船ハ九月以降上海向航路ヲ停止スル旨申述ヘアルモ當地同社支店ハ何等存シ居ラサルニ付右ニ關スル眞僞御確ノ上御回報相成度

1305
昭和16年8月26日　豊田外務大臣より
在上海堀内総領事宛（電報）

神戸滞留ユダヤ人避難民の第二回上海送出について

本　省　8月26日後1時0分発
第八六二號（極祕、至急）
貴電第一五六三號ニ關シ
二十八日神戸發龍田丸ニテ約三百五十名（中第三國査證所

持者六十一名）ノ猶太避難民貴地ニ赴クコトトナリタル處右ハ猶太問題委員會ニ於テモ已ムヲ得スト認メ居ルモノナルニ付貴方ニ於テ可然御手配相成度（一行ニハ貴電ノ通注意方取計スミ）尚外ニ約二百名ノ避難民内地ニ居ル處右ハ今後船便ノ見透ツク迄殘留ノコトトナルヘシ

貴電後段ハ郵船本社トシテハ目下ノ處就航スルヤ否ヤ全然不明ナル爲貴地支店ニ通報シ居ラサルニ依ルモノナリ

1306

昭和17年1月17日　東郷外務大臣より在滿州国梅津大使、在上海堀内総領事他宛（電報）

ユダヤ人に対する緊急措置につき訓令

付　記　欧亜局作成、作成日不明

「時局ニ伴フ猶太人對策」

本　省　1月17日後6時50分発

合第八〇號

大東亞戰爭發生ニ依リ猶太人對策ニ付テモ根本的再考慮必要トナリタル處五相會議決定ノ變更（目下考慮中）ハ暫ク置キ緊急措置トシテ今般外陸海係官ニ於テ左記對策ヲ決定軍側ヨリモ出先ニ電報シ卽刻實施スルコトトナリタルニ付左記ニ依リ措置セラレ度尤モ右實施ニ當リテハ無益ノ刺戟ヲ與ヘ敵側ノ逆宣傳ニ利用セラレサル樣留意アリ度

一、獨逸ハ命令ニ依リ海外在住猶太人ノ國籍ヲ剝奪セルヲ以テ（一月一日ヨリ效力發生）以後獨逸系猶太人ハ無國籍猶太人トシテ取扱フ

二、同盟國ヲ除ク中立國籍及無國籍猶太人ハ我方利用中ノモノ又ハ將來利用セントスルモノ（同盟國ニ於テ特ニ利用中又ハ將來利用セントスルモノ（人名ハ當該國ニ照會ノ上別ニ指示ス）ノ中帝國ノ施策ニ反セサルモノヲ含ム）ハ好意的ニ取扱ヒ其以外ノモノニ對シテハ監視ヲ嚴重ニスルト共ニ敵性策動ヲ排除斷壓ス

三、同盟國籍猶太人ニ對シテハ當該國ニ於テ利用セントスルモノ（人名ハ當該國ニ照會ノ上別ニ指示ス）ハ當該國籍人ニ又其以外ノモノハ第二項後段ニ準シテ取扱フモノトス

本電宛先　滿、上海、北京、南大

（欄外記入）

（付　記）

時局ニ伴フ猶太人對策

（連絡會議決定案）

大東亞戰爭發生ニ伴フ猶太人對策ハ左記要綱ニ基キ實施スルモノトス

要　綱

一、日滿支其ノ他我カ占領地ニ對スル猶太人ノ渡來ハ特殊ノ事由アルモノヲ除キ一切之ヲ禁止ス

二、日滿支其ノ他我カ占領地ニ居住スル猶太人ハ原則トシテ當該國籍人ニ準シ取扱フモ猶太人ノ民族的特性ニ鑑ミ其ノ居住營業ニ對シ監視ヲ嚴重ニスルト共ニ其ノ敵性策動ハ之ヲ排除斷壓ス

三、猶太人中帝國ニ於テ利用シ得ルモノ（同盟國ニ於テ利用シ得ルモノノ中帝國ノ施策ニ反セサルモノヲ含ム）ハ之ヲ好遇スルモ猶太人民族運動ヲ支援スルカ如キコトハ一切之ヲ爲サス

備考　昭和十三年十二月六日五相會議決定猶太人對策要綱ハ之ヲ廢止ス

說　明

帝國ノ從來執リ來リタル對猶太人政策ノ大綱ハ昭和十三年十二月六日附五相會議決定ニヨル猶太人對策要綱ニ示サレ居ル處右對策ハ猶太人ニ對シ好意的取扱ヲ爲スコトニ依リ外資導入或ハ對英米關係惡化回避ニ資セントスル趣旨ニ出テタルモノナリ然ルニ今ヤ大東亞戰爭ノ發生ニヨリ情勢ノ根本的變化ヲ見ルニ至リ猶太人利用ニヨル外資導入或ハ對英米關係打開ノ如キハ全ク無意義トナリタルノミナラス我カ盟邦タル獨伊ハ夙ニ排猶政策ヲ執リ殊ニ獨逸ニ於テハ本年一月一日以降海外在住猶太人ノ獨逸國籍ヲ一齊ニ剝奪スルノ措置ニ出テタルヲ以テ我方トシテハ猶太人ノ取扱ニ付第三國關係ヲ格別顧慮スルノ要ナキニ至レリ他方占領地ノ擴大ニ伴ヒ我カ權力下ニ在ル猶太人ノ數ハ漸次增加ノ傾向ニアリ此等猶太人ニ對シテハ其ノ民族的特性ニ鑑ミ至急適當ノ警戒措置ヲ執ルニ非スンハ占領地行政上不測ノ禍ヲ殘スノ惧ナシトセス然レトモ全面的ニ猶太人ヲ排斥スルカ如キハ八紘一宇ノ我國是ニ副ハサルノミナラス必スヤ英米ノ逆宣傳ニ利用セラルヘキニ付原則トシテ猶太人ハ當該國籍ヲ有スルモノニ準スル取扱ヲ爲シ元獨逸國籍猶太人ハ之ヲ無國籍人ト看做シ白系露人等ニ準スル取扱ヲ爲スコトトシ（無國籍人ノ第三國國籍取得ヲ容認セス）所要ノ監視ヲ爲スニ止ムルコト適當ナリト認メラル

（欄外記入）
陸海軍係官ト協議濟

編　注　本案は東郷外相以下による決裁を了しているが、決裁日は不明。なお、本案は昭和十七年三月十三日に在中国関係八公館へ発電された。